

第 1 回館山市議会議定例会會議録
(第 2 号)

1 平成3年3月7日(木曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1 番 脇田 安保	2 番 永井 龍平
3 番 田沢 勝信	4 番 庄司二三男
5 番 岩村 勝弘	6 番 山崎 雅己
8 番 鈴木 勝美	9 番 山口 康雄
10 番 鈴木 忠夫	11 番 神田 守隆
12 番 榎本 春光	13 番 山中金治郎
14 番 小宮 利夫	15 番 横溝 功
16 番 石井 昌治	17 番 石井 謀
18 番 日下 君敏	19 番 川名 正二
20 番 福原 勤	22 番 黒川 平治
23 番 流山源次郎	25 番 渡辺 昭夫
26 番 近藤 好雄	27 番 林 豊
28 番 飯田 義男	

1 欠席議員 1名

7 番 生稻 陞

1 出席説明員

市 長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収 入 役 渡辺 弘	市長公室長 錦織 茂
総 務 部 長 二通 英雄	民 生 部 長 佐藤 澄雄
経 済 部 長 安西 良一	水 道 課 長 鈴木 信一
教育委員会委員長 職務代理者 杉村 芳枝	教 育 委 員 会 長 福原 修

1 出席事務局職員

事 務 局 長 川上 義雄	事 務 局 長 補 佐 兵藤 恭一
書 記 鈴木 哲	書 記 鈴木 修一
書 記 加藤 浩一	

1 議事日程（第2号）

平成3年3月7日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時03分

◎議長（渡辺昭夫君） 本日の出席議員数23名、これより第1回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

議長の報告

◎議長（渡辺昭夫君） この際、御報告いたします。

本日の会議に説明員として杉村教育委員会委員長職務代理者が出席する旨の報告がありましたので、御了承願います。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（渡辺昭夫君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の3月4日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

1番議員脇田安保君。御登壇願います。

（1番議員脇田安保君登壇）

◎1番（脇田安保君） 私は、既に通告してございます8点について御質問申し上げます。

今回の湾岸戦争は、世界における超大国が今や一国しかないことをはっきりと示した。この戦争は第1にアメリカの戦争であり、その勝利だったと言える。だが、アメリカは勝利とともに戦後の中東新秩序づくりという重い課題をも同時に背負い込むことになった。また、この戦争は史上最悪の環境破壊戦争とも言われ、ペルシャ湾への原油の大量流出、イラクの原子炉の破壊、そして大規模な油田の炎上、地球環境を脅かす最大のものは疑いもなく戦争だと4年前に国連の環境開発に関する世界委員会が示した言葉が今実感を持って響いております。

湾岸戦争のもう一つの重要な側面は環境破壊であります。クウェートの油田破壊が地球環境にもたらす破壊力は、ある意味で原油流出以上であります。まさに、イラクによる環境テロそのものであり、火災を起こしているのが地中から原油を吹き出している自噴油田井戸だけに消火が困難で、鎮火するには1年から1年半は要するとの見方であります。国際環境保護団体は油田炎上が重大で、長期的環境汚染を引き起こすことになると警告しています。湾岸戦争が始まったときから多国籍軍とイラクのどちらが勝とうとも、最大の敗者は環境だと言われてきました。猛烈な環境破壊をもたらした戦争のコストは余りにも高い。人類の未来のために軍備の強化により軍事的脅威を増すのではなく、環境汚染に立ち向かうことこそが今求められているのだと思います。そして、この環境汚染を起こした者こそ人間であり、その汚染を解決していかなければならないのもこれまた人間であることは忘れてはならないことであります。人間が自らの手で自らを破壊していくという愚かな行為にはほかなりません。こうした時代にこそ、私は為政者の人間性が大切になってくると思います。これは国にしても県にしても市や町にしても原理は同じことで、政治的指導者がいかに人間の生命をとうとく思っているかがその施策の原点になると考えて過言ではないと思います。大きな事業であれ、小さな事業であれ、そこには温かい人間性が通っていなければならない、かように私は考えるものです。

そこで、私はこの人間性という観点から市長の施政方針を見つめてみました。そしてまた、特に市民の関心事や今まで積み上げられてきた半澤市政の

流れは今後一体どのような形で変わっていくのか、人がかわると施策の見方も考え方も変わるのではないかという点についてです。つまり半澤市政の中で決定されてきました館山市の基本計画は、新しい庄司市政の中でどのような進展や変更があるのだろうかという点です。このようなさまざまな施策を背景にしまして私は御質問申し上げたいと思います。

昭和61年4月に制定された館山市基本計画は、西暦2000年を展望した館山市の長期ビジョンであります館山市の基本構想に基づいて作成されたものです。この基本構想は、昭和61年から平成12年までの時代の趨勢に対応した構想であります。特に、高齢化社会の対応、東京湾横断道路への対応、インダストリアルパークの推進、下水道への取り組みや河川浄化対策の推進、住民から要望のある事業の進め方についてなど、今までの計画の進みぐあいや取り組み方の違いについて質問いたしたいと思います。

まず、第1点の高齢化社会のとらえ方についてですが、着実に進んでいる高齢化社会への対応は当市にとっても重要な課題であります。そこで、私は市長の構想としての在宅福祉のあり方と老人の生きがい対策についてもう一步市長の所信を明らかにしていただきたいと思うものです。

次に第2点、東京湾横断道路への対応については、完成後に来る将来の館山市の位置づけと役割について、市長の展望についてお尋ねいたします。また、新交通システムについては今までは陸地における交通だけでしたが、基本計画によると海上交通路の開設と空を利用した新交通システムが示されております。この海空の交通の計画についてこの際明らかにしていただきたいと思います。

続いて、第3点のインダストリアルパークの推進については、この取り組みの積極性についてお聞きしたいのです。このインダストリアルパークにつきましては、今までの基本構想には2本の柱がありました。地域住民とコンセンサスを図りながら企業誘致の用地を確保し、基盤整備を県とともに推進する、2、計画の進捗に合わせて企業の誘致をするとあります。市長のこの事業の取り組みについてお尋ねいたします。

続いて、第4点目の下水道や河川浄化対策の推進についてであります、

これについては実施していくスピードについてお尋ねします。つまりどのような計画や順序でこれらを進めていきますか、もう少し具体的に説明をお願いいたします。

次に、第5点目の住民からの要望のある事業の進め方についてですが、この点については館野保育園の改築についてお答えを願いたいと考えます。御承知のように、館野保育園は定員が満杯であり、保育園へ入りたくても入れないというのが現状であります。こうした住民の要望をどのように感じ取られていくのか、その対応については大変政治的姿勢があらわれるものと考えます。そこで、この事業については改築の場所をどうするのか、建物の規模はどうなるのか、住民のニーズにどこまでこたえられるかについて市長の所信をお伺いしたいと思います。以上が基本構想に関する質問であります。

次に、市民サービスについてですが、新市長の誕生を機会に私は市民にも喜ばれる画期的な市民サービス制度について提案し、当局のお考えをお尋ねしたいのであります。さて、土曜閉庁は完全週休2日制への移行措置として自治省の指導で一昨年4月から開始されました。最初県庁や県警が実施したのを皮切りに市町村レベルでも次々と踏み切るようになり、大半がスムーズに移行しました。県内80市町村のうち、銚子市だけがただ1つ実施していません。市長は、「市の行政の基本は住民サービス、これを低下させてまで実施するわけにはいかない」と話されています。当市は昨年の6月から第2、第4土曜日が閉庁になりました。週休2日制が社会の趨勢とはいえ、市民サービスの低下は避けられません。また、市民サービスの向上を常に心がけることが行政の義務であると思います。

そこで、館山市も市民の皆さんに市への届け出や手続の方法、施設の利用方法、催し物の案内などを電話で自動的に案内する装置、仮称館山暮らしのテレフォンガイドであります。これはあらかじめ市がコンピューターに音声を登録しておき、市民は手続や届け出の方法がわからないなど困ったとき館山暮らしのテレフォンガイドに電話をかけ、家庭に配布されているサービスコード表の中の3行のコードをダイヤルすることにより、そのコードに対応した案内が音声で流れるというシステムを採用したらいいかかと思えます。

もう少しこのシステムについて説明を加えますと、市民にとって行政上の手続には繁雑なものが多く、市役所の窓口で必要な書類が足りないため住民が何回も足を運ぶことがよくあります。市民の日常生活の利便性を考え、市役所に関する項目だけでなく県や公的性格が強い民間会社に関する項目も入力できます。また、ライフサイクルごとに必要な手続や届け出をまとめ利用もできるのです。また、市長から市民へメッセージを届けるとともに、市民からの意見や提案を受けることもできます。メリットは、職員の仕事の軽減と市民は24時間どこからでも情報が得られますし、観光地館山の宣伝など多種多様に利用できます。ここで、この市民サービスの画期的なシステムを採用したらどうかと思うのですが、市長の所感をお答え願いたいと思います。

次に、教育問題についてですが、市長は長年教育畑を歩いてこられ、学童教育については深い造詣をお持ちであろうと考えます。それだけに今後の取り組みについては大きな期待が持たれ、そこで私は教育問題について2点伺います。

まず、第1点として、偏差値問題についてです。目下の国民的課題となっております教育問題、非行、校内暴力、登校拒否、無気力症、または進学地獄に拍車をかけている偏差値志向、世情抗議がなされない日は一日としてないと言っても過言ではないと思われるのです。学校や家庭においても、それぞれの立場で必死に取り組んでいることと思います。しかし、いまだ確たる処方せんがないのが現状です。教育の本質は人間を育てることであり、皆細かな枝葉にこだわって人間教育を忘れては教育は失格と思うのです。教育の目的は人を人間まで導くつまり人間形成であり、人間建設であると思います。本来教育の出発点は、どこまでも子供の生命におさめられた豊かな知識と可能性を信じ、それを触発していくことにあると思うのです。最近の子供たちは創造性に欠けるとともに、協調性や思いやり等に乏しく、3つの間が奪われてしまったと言われています。その3つとは、時間、空間、仲間のことにほかなりません。子供たちに余裕のない社会をつくり出したまさしく受験地獄の教育砂漠なのであります。まことに嘆かわしいことです。学校教育はその制度やカリキュラム等の枠組みがどう変わろうとも、最終的な決め手は授

業であり、これを担当する教師にあると言われています。まさに、使命感であり専門職でもあります。その反面、子供1人1人がどう育ったか評価され、教師の全人格と力量があらわれます。今親たちの間で教師の当たり外れが公然とささやかれております。これは教員1人1人の質について厳しい評価の声と言えましょう。また、753教育という言葉があります。能力について、高中小において7割、5割、3割の児童生徒が授業についていけない、教科書がわからないという落ちこぼれ、現在の学校教育の実態を言った言葉です。詰め込みにされがちな教育で起こるべくして起こった問題ですが、この原因がよい高校、よい大学、よい企業、官公庁への就職という学歴偏重社会が生み出した偏差値偏重の受験競争を激化させていると思います。当市の中学において偏差値主導型の進学指導についてどのように対処しておりますか、また今後どのように対処されていきますか、お尋ねいたします。

第2点としましては、少年の非行と登校拒否対策についてであります。現在の社会構造及び経済情勢の変化に伴い、核家族化の進行、夫婦共働き家庭の増加により、子供が学校から帰宅しても監視者であり、保護者であるべき親がいないことから少年の非行化は年々増加の傾向をたどり、また低年齢化しつつあることは憂えられる現状であります。市内の中学校で平成元年に50日以上休んだ生徒は57人で、過去最悪であることが基本調査でわかりました。調査によりますと、長欠者57人のうち病気やけがで休んだ生徒は16人で、41人は情緒障害や勉強嫌い、怠けなどの学校嫌い等、家庭の無理解や家庭内の異常に伴う登校拒否生徒であります。そこで非行と登校拒否対策について伺いいたします。

以上、8点について御質問申し上げました。御答弁によりまして再質問させていただきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの脇田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の高齢化社会への対応はどうかとの御質問でございますが、本市における平成3年3月1日現在の65歳以上の高齢者は総人口の18.7%にな

っており、高齢者福祉に対します要求は高齢化の進展、核家族化の進行、女性の社会進出等により、一段と複雑かつ多様化してきております。こうした状況の中で、高齢者自らが生きがいを持って生活することが最高と考えております。反面、社会的に弱い立場にある人には優しい手を差し伸べる必要があると考えております。高齢化への対応は、これらを踏まえまして在宅福祉、施設福祉の各施設を一層推進し、事業の総合的かつ計画的な実施を図る必要があると考えております。このため生きがい対策といたしましては、高齢者の知識や技能を生かした社会参加の促進を図る目的で昨年10月に任意団体として発足しました館山市高齢者働く会に助成を行ってまいりたいと考えております。在宅福祉施策につきましては、在宅福祉の3本柱であるホームヘルパー、ショートステイ、デイ・サービス事業を積極的に推進してまいります。デイ・サービスセンターの建設につきましては、特別養護老人ホームに併設するのが原則でございますので、施設長や近隣市町村と協議し、広域的に設置の方向で検討を進めております。

次に、大きな第2の東京湾横断道路と新交通システムについての御質問でございますが、東京湾横断道路が及ぼします影響につきましては、日本道路公団が公表した東京湾横断道路調査において南関東乃至は千葉県に与える経済効果等が明らかにされておりますが、いずれにいたしましても本市にとりまして多大な影響を及ぼすものであり、半島性から脱却する大きな機会であると認識しております。したがって、この波及効果を最大限に活用すべく、その対応として新たに策定した館山市基本計画において海洋性リゾートタウンのまちづくりを総合的に推進する旨位置づけたところでございます。今後は基本計画を指針に、活力ある地域社会の形成に努めてまいり所存でございます。

次に、新交通システムの計画についてでございますが、海洋性リゾートタウンのまちづくりを推進する中で、新たな要求に対応した多様な交通手段の確保の観点から基本計画に掲げたものでございます。京浜方面と本市を結ぶ海上交通システムにつきましては、関係者とさらに協議を重ね検討してまいりたいと考えております。また、空の交通システムにつきましても、今後引

き続き検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第3のインダストリアルパークの推進状況と今後についての御質問でございますが、昨年秋から基本計画の策定を開始し、現在県や関係地区住民とともに計画策定委員会や地区説明会を重ねているところでございます。これまでに開発区域の設定を終えまして、現在は進入ルート、排水ルートについての協議中でございます。今後は地元及び県等関係機関と協議を重ねながら土地利用計画等をまとめ、策定された基本計画に基づきましてインダストリアルパークの実現に努めてまいりたいと考えております。

次に、第4の下水道はいつできるかとの御質問でございますが、公共下水道につきましては引き続き住民との合意形成を図りながら今後都市計画決定等の法的手続を進め、一部区域の供用は平成11年度末を予定しております。

また、河川浄化対策はどうなるかとの御質問でございますが、市民の浄化に対する意識の高揚を図るとともに、平成2年度に実施いたしました排水路現況調査をもとに、新年度には汐入川に流入する北条海岸排水路、六軒町下水路、二中西側排水路等を対象に浄化施設の設置を計画しております。さらに、今後公共下水道整備計画との整合を図りながら、汚濁負荷の高い排水路等の浄化施設の設置を検討してまいります。また、公共下水道整備区域外に対する浄化対策といたしましては合併処理浄化槽の設置を奨励、指導するとともに、引き続き各戸への啓発用チラシの配布や家庭でできる浄化対策としてモデル地区を定め、三角コーナー、水切りごみ袋の試供品の配布及び説明会を実施してまいります。

次に、大きな第5の館野保育園改築についての御質問でございますが、現在の園地が自然環境や地理的条件にも恵まれておりますので、現在地に定員60名規模の園舎の改築工事を計画しております。

次に、大きな第6のテレフォンガイドについての御質問でございますが、テレフォンガイドは小田原市が平成2年8月から市への届け出や手続の方法、施設の利用方法、催し物のほか、市長の声などを電話で24時間自動的に案内するサービスとして始めたものです。家庭などの電話から無料で手軽に日曜日や祝日はもちろん夜間でも利用できるこのシステムは、今後週休2日制へ

の移行が進み、また昼夜活動をし続ける市民生活の実態にかんがみ、今後検討すべき新しい市民サービスの1つであると考えております。

大きな第7、第8につきましては、教育長から答弁いたします。

以上であります。

◎議長（渡辺昭夫君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えいたします。

大きな7、当市の中学校において偏差値優先の進学指導に対してどのような対処しているか、また今後どのように対処するか、このような御質問でございますが、現在各中学校とも通常学力偏差値は使用しておりません。ただ、他県の高校を受験する等、特別の場合に参考資料として利用しております。現在市内の各中学校で行われております進路指導においては、生徒の希望をあくまでも尊重し、生徒、父母との話し合いによって進学先を決定しておりますので、特別問題はございません。

大きな8、少年の非行と登校拒否の関係でございますが、非行と長期欠席児童生徒との関係でございますが、平成元年度の中学校の例を見ますと、病気治療、療養を除いた41名の欠席生徒のうち、26名が欠席中に遊んでいるという調査結果が出ております。しかし、この41名の長欠生徒の内訳を見ますと、情緒障害等による欠席がほとんどであります。すなわち、対人関係がうまくできないために欠席しているのであって、したがって遊んでいる内容は外で遊んでいるのではなくて家で遊んでいるということでございます。そのため、非行とは直接結びつく例は少ないと考えられます。いずれにいたしましても、その長欠問題を解決することが大きな教育課題となっておりますので、館山市教育委員会といたしましては常に各学校の長欠状況を把握し、年3回学校の長欠対策主任を招集して研修会を行い、校長会、教頭会で現状を報告して各学校への働きかけをいたしております。特に、今年度は館山市教育問題研究委員会にこの長欠問題について諮問し、現状の分析とそれに対する対策、指導の手引書等の作成を依頼し、現在作成中でございます。また、千葉県教育庁安房地方出張所におきましてもこの問題を重視し、手引書等を

作成して対策を講じております。各学校におきましては1人1人の欠席児童、生徒の状態を分析し、その児童生徒に合った対策を模索しながら家庭訪問を繰り返したり、福祉事務所等の関係諸機関と連携を図りながら指導を進めております。今後も長欠問題を解消すべく指導の強化を図ってまいりたいと存じます。

終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） 市長、教育長より明快なる御答弁ありがとうございました。二、三質問をさせていただきたいと思います。

まず、最初の高齢化社会の問題についてであります。これは避けて通れない最も重要な問題であるかと思えます。一番やはり大事なことは政治的な配慮が必要であると思えます。そこで、先ほど答弁でもございましたいわゆるデイ・サービス事業について、特に若干伺っていききたいと思います。

この事業は大変に大事な事業であります。在宅での体の弱い老人や寝たきりの老人の人たちに、通所やあるいは訪問でいろいろサービスを受けられることということですが、社会的な孤独感やあるいは心身の機能の維持の向上などを図るように言われています。一番大事な大きな目的は、家族の精神的な負担を軽くしていくことがこの事業の果たすところかなとは思いますが、そのデイ・サービス事業について私が聞いておるところによりますといろんな形があるそうなんですけれども、鴨川で行っているデイ・サービスはB型を採用しているようでありますけれども、館山の広域圏のところで行う事業はどのような形のものを取り入れていくのか。

それと、もう一つ生きがい対策について、高齢者の働く会が発足されました、昨年、今御答弁ありましたように。入会に際しまして規則とか、あるいはだれでもこの会に入会できるんですか、その点まず伺いたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） デイ・サービス事業につきましてまずお答えしたいと思います。

このデイ・サービス事業につきましては、基本的には国の在宅老人デイ・

サービス事業整備要綱というものに沿って行われるわけでございます。ただいま御指摘がありましたように、いわゆるデイ・サービス事業及びデイ・サービスセンター型の事業につきましては、この国の要綱の中で若干の形がございます。A型、B型、C型という基本的な3つの形があるわけでございます。この形はどのようなふうに分かれるかといいますと、この事業の内容によって違ってくるわけでございます。まず、事業の内容としましては、基本事業、これが6つの事業があるわけでございます。生活指導、日常動作訓練、養護、家庭介護者教室、健康チェック、それと送迎と6つのジャンルがございます。それから、2つ目に通所事業、これが入浴サービスと給食サービス、この2つでございます。さらに3つ目、訪問事業といたしまして、入浴サービス、給食サービス、洗濯サービス、この3つでございます。この3つの事業の中身を、A型では基本事業と通所、訪問全部の事業を入れるもの、これをA型と称しております。B型は、基本事業と通所事業、訪問事業、この中の入浴サービスに限るということで、これを合わせました一部を取り入れる。それからC型、これは基本事業とさらにこの中での他の5項目のうち3項目以上を選択して実施する。それとともに、通所事業及び訪問事業のサービスのうち2つを選択して実施するということになっております。現在計画中の館山市でのデイ・サービスセンターにつきましては、現在のところB型を基本的に考えておりますけれども、メニューを含めまして施設の設置の問題もございまして、状況によってはC型で実施するという考えも持っております。

それと、高齢者働く会につきましてはでございますが、昨年10月結成しまして本年2月総会を開きました。その中で正式に規約をつくりまして、その第5条によりますと会員は館山市に居住し、おおむね60歳以上の者で働く会の目的に賛同し、登録された者ということになっております。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田君。

◎1番（脇田安保君） デイ・サービスのところですけども、ちょっとよくわからなかった部分あるんですけども、確認の意味で。

B型をできればやりたいんだ、施設の規模によってC型になるかもわからないという答弁でよろしいかと思うんですけども、そうしますとA型、B型、C型と3種類あって、B型の場合ですと基本事業と通所事業、その中で入浴サービスに関しては——A型は訪問で入浴サービスを行うけれども、B型の場合には入所して入浴サービスをやるよという考え方でいいかと思うんですけども、その中で現在そうしますとデイ・サービスセンターがB型で開設した場合にどれだけの規模で——床面積等今の特老と併用して行うそうでもありますけれども、御承知のように敷地も狭いし、どの程度の規模のものができるのか。また、これでB型ですと15人以上という要綱がついているんですけども、この上限についてどのくらいまで施設に収容できる施設をつくっていくのか。それと、その際広域圏ってことですけども、利用者の送迎の点はこの施設の中で含めて送り迎えをしていくのか、その点伺っておきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） まず、デイ・サービスセンターの人員の上限でございますけれども、国の要綱によりますとこの面積につきましては165平方メートル——この規模ですね、これが165平方メートル以上とするという1つの設定がございます。そういう中で人員——いわゆる収容といいますか、来所をしていただく方々の人員等も考慮をする。そのスタンダードが、標準が15名という形になっているわけでございます。したがって標準だけを決めて、その上限はその施設によって違うということで決めてございません。

それと、送迎でございますが、送迎の関係はいわゆる基本事業の中では必須になっております。ただ、その市町村っていいですか、その中でいらっしゃる方々がいわゆる保護者同伴で来ていただいたり、そういうことまでも規制してございません。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） そうしますと、1点だけ伺っておきたいんですけども、このB型を採用した場合に訪問事業はやっていかないんだ、通所して、通って来られた方には入浴サービスをしていくっていう御答弁ですけども、

現在館山市が訪問事業で入浴サービスを行っております。寝たきり老人と障害者の寝たきりでしたかね、ちょっと記憶が……。障害者の寝たきりの方を対象に訪問入浴サービスを実施しています。そちらの方の整合、兼ね合い、また今現在それ行っているのは、これから継続していくわけですが、その内容をちょっと説明していただけますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 現在行われております寝たきり老人等入浴援護事業につきましてでございますけれども、現在は対象者といましては6カ月以上寝たきりの状態で日常生活のほとんどに介護を要するおおむね65歳以上の者、及び日常生活のほとんどに介護を要する18歳以上65歳未満の寝たきり身体障害者で市内に居住し入浴が困難な者を対象としてございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） その入浴サービスの件なんですけども、私の聞いているところによりますと障害者の方は対象に入らないわけです。入らないでやっぱり家族の方が、介護している方がお風呂に入れるのがすごく大変なことも話を聞きます。なかなか女の方で男性をお風呂に入れるっていうのはすごく難儀だっている声も聞かれますので、なるべくその枠を今後少しでも拡大していただければということで、この点は要望しておきます。時間もありません。次に移ります。

次は横断道のことでありますけども、これは本当にすごい事業で、もう何度もお話出ておりますけども、私の聞いているところでは完成時には木更津は人口が2倍になるとも言われておりますけども、また上総研究都市の完成と、今御答弁いただきました館山には多大な経済効果が波及してくるんじゃないかということでもあります。それで、陸の方はよろしいんですけども、その中で海上の方——空っていうのも大変ですけども、海上の点にひとつ伺っておきたいんです。この京葉方面と本市を結ぶことを検討されているっていうことを今現在御答弁ありましたけども、京葉方面とどのようなもので現在進めているのか。例えば、高速船だとかあるいはカーフェリーだとかという

ことが考えられるんですけども、その1点伺っておきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） ただいまの御質問でございますが、会社側としますと経費の点だとかあるいは人の問題だとかいろいろあるかと思うんですが、そういうところから最初に高速艇から入ろう、そしてでき得ればフェリーに切りかえていきたいというような構想を持っているようでございます。以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田君。

◎1番（脇田安保君） 高速艇ということですけど、私も長崎に行ったときに長崎空港からオランダ村まで高速艇で約40分ぐらいなんです。そうしますと、館山から羽田空港まで同じぐらいの時間で行けるかなと思うんですけども、ぜひとも海の方のことも検討されていきますようお願いいたします。

次に、インダストリアルパークの件につきまして若干御質問したいと思えます。これは地元のことですから、地元の意向等もいろいろいただいて現在協議されているということでもあります。そこで、一番やはり問題になるのがあの進入道路とやはり排水のことです。これは特に今回の通告の質問で確認しておきたいのですが、一番大事なのは地元住民の生活に大きな影響が出る排水の件であります。私も何度もいろんな方から質問聞くんですけども、あれだけの10ヘクタールの工業団地が造成されますと——排水路は必ず改修していかなきゃならないんですけども、農業用排水路について基盤整備を行ったときに——基盤整備の設計の方では絶対に水害は食いませんというお墨つきで設計が上がりまして基盤整備を行って、完成した年ですか、翌年でしたか、大分大量の雨が降ったときに床上浸水っていう家庭が出たんです。その方がいまだかつてまだお役所仕事はっていうことをよく言われるんですけども、10年間のデータを出して、それを計算して、絶対これならばもう排水は万全ですよということで土地改良が行われて、その結果としてそういうふうな災害が起こったわけですけども、また今回その方がおっしゃるにはこれだけのものが——同じ排水路今の基盤整備やった上にまたできるわけですけども、そうしますとこれはまた同じことを2度繰り返すんじゃないかとい

う危惧を持っているのであります。その点についてどのような方法で行われるのか、お聞きしたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 脇田議員さんのおっしゃるように、そのようなことがあったようでございます。このインダストリアルパークを計画、検討しておるわけでございますが、当初はその区域内で水を一たん処理するというようなことで調整池というものを——そこでまず調整をして、そして徐々に下に流していくというような計画でおったわけでございますが、そういうこともお伺いしたものですからそれらも加えまして、それから下に当たります農業用排水路、現在ございます農業用排水路を拡幅も検討しておるところでございます。なお、JR線のところ、あるいは国道のところ、これらと交差する地点が一番ネックであるということも聞いておりますので、それらには十分対処するというようなことで現在協議中でございます。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） そうしますと、国道までの排水路は改修ということによろしいんですけども、その下に流れている滝川という川がございまして、その川が現在も1年の中に一、二度両側の水田には冠水するわけです。今現在工業団地ができていない状態において、やっぱり毎年度稲の発芽前——要するに穂が出たくらいか、ちょうど花咲くころによく冠水して困るんだという話を何度となく聞くんですけども、これは滝川に関しては2級河川ですから県の方の管轄かとは思いますが、この滝川の河川改修ということについては市としてはどのように考えていますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 滝川につきましては、おっしゃいますとおりこれは県の関係でございます。県が管理をするということになっております。それで、県の方にもちょっと私お伺いしましたところ、年次的に計画を進めていきたいというようなことも思っているようでございますので、できるだけ早く整備をしてほしいというようなことで申し入れはしてございます。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田君。

◎1番（脇田安保君） ちょっと1点聞き漏らしたかなと思うんですけども——排水の件は以上でよろしいんですけども、進入道路——私も今の時代ですからあそこの工業団地に入っていくにはJRが走っております。JRの——どっから入っても要するにJRを越えるわけですけども、越えるのに対して進入方法っていいですか、高架といいますか、そういう方法をとっていくのか、平面的に交差していくのか、その辺伺っておきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 確かに、あそこのところは国道128号、それから内房線が走っておるところで、それもしかもしも近接しておるところで、非常に難関な場所だというように調査会でも出ております。そこで、どのような方法でやるかということは、基本的には立体交差にしようということで考えております。ただ、ルートの的には大体今稲にございます十字路、あの付近から南側に行こうというように基本的にはなっておりますが、細部的にしたらばどこから上げたならば技術的に可能かというようなことでその辺の詰めが現在残っております。今月の末にもそういったものがある程度決まってくるかというような状況でございます。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田君。

◎1番（脇田安保君） オーバーパスっていう方法ですかね、あの方法ですと。そういう方法でいけば今後これからの交通体系で一番いい方法かなと思います。できるだけ道路も、進入路も1カ所でなく、数カ所をぜひとも考えていただきたいと思っております。

じゃ、次に移ります。下水道の問題ですけども——下水道と浄化対策についてであります。この浄化対策については12月議会でも私質問申し上げましたが、その後三角コーナーあるいは水切りのごみ袋の試供品が地区ごとに渡されて試験的にやられているんですけども、自前でこれを求めて使用している方の調査を12月に私が提案したんですけども、この数カ月の間に行われた

のか、その点お尋ねします。

その下水道の問題についてもう一点伺っておきたいんですけども、平成11年までに一部地域を行っていくという、下水道整備していくんだということでもありますけども、今の説明では11年で行うってことでもありますけども、そうするとそれ以降の計画の中で約 1,200という下水道計画ございます。そうすると、単純に考えまして3年度から平成11年度ということは約8年間あるわけです。そうすると、1,200戸、単純に考えて掛けてみますと100年かかるわけですね、100ヘクタールとしまして。そうすると、100年も先のことをこれから今の1,200ヘクタールの中で行っていくのか、もっと早く――要するにどの程度早くなるのか、その2点伺っておきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 追跡調査のことではございますけれども、3月中に実施計画で、現在環境生活課で準備を進めてございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 1,200ヘクターのものを今の計画でいけば整備するのには100年かかるんじゃないかというお話でございますが、単純に計算すればそうなるかと思えます。しかしながら、ある程度この100ヘクターが事業が進んできた段階で次のどこをやるかということで考えて逐次繰り上げていくことも可能ではないかというように考えております。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田君。

◎1番（脇田安寿君） ぜひとも――100年っていうのは長過ぎるんですけども、半分ぐらいの50年ぐらいで、市制100周年記念には下水道が完備されたというふうな構想をぜひともお願いしたいなと思えます。

それと、アンケートの件ですけども、調査をするってことですけども、これは本当に使用した方がアンケートに参加するってことでまた浄化対策の意識の高揚にもつながりますので、ぜひとも実施をしていただきたいと思えます。

次に、館野保育園のことですけれども、市長さんは御答弁の中で自然的な環境あるいは地理的条件が非常によろしいということで、父兄の間で評判もよろしいようですけれども、この定員について40人定員がずっとこの2年くらいですか、今年度と昨年度ずっと続いてきまして、今度は60人ということで改築を行うようであります、60人定員にするには床面積を広くしないと60人の定員にはならないかと思うんですけれども、今の園舎を改築して60人定員にするともっと大きくなるわけです。あそこ余り広いところじゃございませんです。そうしますと、園児の遊び場っていうんですか、運動場っていうところが大分狭くなって、やっぱり子供の外で遊ぶ広場がなくなってくるんじゃないか、そのように思いますけれども、その点はどうなんですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 現在の館野保育園の関係でございますけれども、御承知のとおりあの園舎の裏側に山があるわけですが、あの山は市有地の山でございます。この計画の中では、あの裏山を取り崩しまして広くして園舎も建て直すという計画でございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田君。

◎1番（脇田安保君） 山を崩すんですか、わかりました。そうしますと、大変な事業かと思うんですけれども、今私も言いましたようにもう2年間定員もいっぱい、申し込む方が申し込んでも入れないというような状況でありますので改築されるっていうことなんですけれども、これは5カ年計画の事業の中で明らかにされてきたことでありますから、そうしますと今年度行っても5年後に行っても計画の中なんですけれども、これについては今年度行うんですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 計画の段階では、平成4年度から3カ年計画で実施したいという計画でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田君。

◎1番（脇田安保君） 今何度もおっしゃいますけれども、環境がよろしい、地理的条件がいい、父兄からは評判がいいんですから4年と言わずになるべ

く早く行って、入所定員を、住民の希望される方に入っていただくような方法で改築されてなるべく早い時期にお願いしたい、それ要望しておきます。

以上で終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で1番議員脇田安保君の質問を終わります。

次、2番議員永井龍平君。御登壇願います。

（2番議員永井龍平君登壇）

◎2番（永井龍平君） 私は、3点について御質問をいたします。

まず、第1点でございますが、相生橋（真倉区）のかけかえの促進の現況と今後の見通しについて、2つ目に相生橋に接続する汐入川沿いの市道1045号線の拡幅整備について、3つ目に我がまちふるさと川づくりとして汐入川の水辺等の周辺整備をしたらどうかという御質問でございます。

私昭和62年9月議会において、真倉区にある相生橋の整備を学童初め一般利用者の安全上、車両の渋滞緩和のため早急に対処されたいことをお願いしてございます。そのときの当局の御答弁では、安全対策という面をあわせまして市ではなるべく早く整備をしたいというお答えをいただきましたが、既に3年半を経過しております。現状の相生橋は当時よりも交通量が増加し、橋の損傷も進み、午前7時から8時には車両通行どめになりますが、8時から9時の間には歩行者や自転車利用の通勤利用者等は相生橋を通行するのに車両の通る合間を利用しなければならず、大変な難所となっております。近隣住民や通行利用者はこの相生橋のかけかえが早くできないものかと強い願望と期待を持っております。しかし、本年度には用地取得、平成3年度には橋梁の設計委託を予算化する運びとなったことにつきましては、当局の御努力に対し評価をいたすものでございます。もちろんこの相生橋のかけかえ事業につきましてはまず用地交渉から始まり、用地取得等これに携わる職員の御苦労は私自身一時関係しただけに大変なことだったと承知しております。この橋は館山地区、北条、豊房地区を結ぶ交通の要所であり、今後館山白浜バイパスが完成しても交通量は減少することはないと考えます。周辺住民はもとより、学童、一般利用者等の生命の安全対策の上からも早急に工事を着手されるようお願いいたします。私が聞くところによりますと、館山側につ

いてはほぼ用地取得が完了したということでございますが、現在考えている橋梁かけかえの計画、相生橋の建設の時期についてどのようになるのか、お伺いをいたします。

次に、相生橋に接続する汐入川沿いの市道1045号線の拡幅整備について御質問をいたします。この道路につきましては、相生橋を要所として館山、北条、豊房、白浜方面の利用者が大変多い道路であります。この市道の幅員が3メートル幅の箇所が五、六十メートルもあり、朝晩の時間帯には大変な渋滞をいたしております。利用者も地域住民もまことに迷惑をしており、もっと広く改良してもらいたいと強く希望しております。私もこの道路の拡幅整備をお願いしてきたところでございますが、用地取得等の問題で時間がかかるということで、市、県にお願いして昨年10月に川沿いの竹やぶを撤去していただき、見通した景観もよくなり利用者も大変喜んでおりますが、これはあくまでも緊急的措置の対応と思いますので、この道路の拡幅整備を早急をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか、御質問をいたします。

3点目の我がまちのふるさと川づくりとして汐入川の水辺等の周辺整備をしたかどうかということでございますが、庄司市長さんは市立第二中学校の校長を歴任されてこられました。二中校歌の中に、「松の香清くみどりさえて、底澄む真砂の汐入川」とうたわれております。この校歌は昭和26年につくられ、この詩にありますように当時の汐入川はまことに美しく清らかな川で、子供たちも水遊びに親しみ、さまざまな魚や生物も生き生きとその姿を見かけることができた聞いております。近隣の人たちもこの汐入川に大変な親しみを覚え、川辺を散策し、心に安らぎをもたらしてくれたと当時を知る方に伺いました。しかし、残念ながら近年生活排水やごみなどで水が汚れ、川底にはヘドロ等がたまり、川の美しい姿が消えてしまいました。この結果、昭和47年にはBOD数値がリッター2ミリグラムであったが、昭和63年にはリッター14ミリグラムにまで汚染が進み、毎年の海水浴場開設前のふん便性大腸菌群の検査も頭を抱える問題になったのであります。しかし、その後市民の間に環境保全の意識が高まり、きれいな海や川を取り戻そうという運動が高まり、行政もさまざまな施策を行ってまいりました。この施策の中には

塩素滅菌器の設置、各家庭の雑排水対策、また川をきれいにするクリーン・アンド・ビューティフル運動等が展開されてまいりました。この中で、ニシキゴイ等の放流が昭和58年から毎年実施され、現在では二中の要橋から相生橋の間では数百匹の数多くのマゴイ、ニシキゴイが悠々と泳いでいる姿が見られ、住民の方たちは毎日その姿を見て楽しんでおります。また、川面にはアヒルを初めさまざまな鳥類もたわむれる姿も見られるようになりました。幸いにも来年度予算には汐入川流域の排水路に排水処理施設も建設され、汐入川下流も海もきれいになることでしょう。

さて、県においてはふるさと川づくり事業を各地で進めておるようです。県単独の事業としては、千葉市の印旛放水路を初め11市町12河川、県費補助事業として船橋市の海老川を初め7河川平成2年度で実施されたようでございます。このふるさと川づくりには、豊かで潤いのある河川を再び取り戻すために魚釣り、ホタル狩りや水遊び、川べりの散策等ができる水辺環境をつくり、その水辺風景は人々の心身に安らぎをもたらしてくれます。このふるさと川づくりの目的はそんな川辺の環境を整備をする事業であり、川を美しく、そしてレクリエーションの場所として市民に提供していく事業であります。市街地に流れる中心河川でございますこの汐入川の川づくりについてですが、水がきれいで魚が多くすめる川、自然と触れ合える心に潤いをもたらしてくれる川、安心して水遊びや魚釣りができ親しめる川として、県と協議してこの汐入川周辺環境整備をしたらと御提案いたすものでございますが、市長さんのお考えをお聞かせいただきたく思います。

以上、質問をいたしました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの永井議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の相生橋かけかえ事業についての御質問でございますが、まず現況につきましては事業の基本計画を策定し、西側の一部用地を除いて用地取得が終わり、家屋等の移転を進めているところでございます。今後の見通

してございますが、平成3年度に相生橋の調査、設計を委託するとともに、河川管理者であります千葉県と協議し、早期のかけかえ工事に着手したいと考えております。

次に、大きな第2の長須賀地区から相生橋に至る市道1045号線の拡幅整備についてでございますが、現在側溝が設置されております箇所については平成3年度に側溝改修をすることにより道路幅員の有効利用に努めたいと考えております。

次に、市道1045号線の相生橋付近の道路につきましては、民地の所有者の御理解をいただき用地を取得する一方、河川につきましては県と協議をし、少しでも広く幅員のとれるように努めたいと考えております。道路改良につきましては、できれば相生橋のかけかえ工事が完了するまでに実施したいと考えております。

次に、大きな第3の汐入川の河川浄化につきまして、市といたしまして平成3年度に排水路浄化施設を設置する予定でございます。県におきましても、河口付近に底水路事業で河川浄化に努めているところでございます。

二中校歌の貴重な御意見を拝聴いたしました。

ふるさと川づくりの事業等はできないかという御質問でございますが、この事業は河川の高水敷や河川周辺の空き地を活用して行うもので、汐入川は元来河川幅がなくこの事業は困難であると県から伺っております。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） 第1点目の相生橋のかけかえについて御質問いたします。

まず、橋の構造幅、橋の長さ等その規模はどのようになりますか、考えておられますか、まずお尋ねをいたします。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 基本的には、現在市で考えておりますのはコンクリートげたの床版橋にしようというようなことで考えております。また、幅員でございますが、現在の幅員は4メートルでございます。それを7.5メ

ートルにしようと。そして、延長でございますが、延長は16メートル現在でございますが、ちょっと取りつけの関係で17.5メートルになろうか、現在はどのように考えております。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） わかりました。

また、もちろん県の補助もいただくわけでございますが、推測される費用、事業費、また、工期はどのようになるのか、お伺いいたします。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 工事費は、正直言いまして今設計も終わっておりませんそういう段階でございます。また、入札等の関係もございますので、この点についてはひとつ御遠慮させていただきたいと存じます。

それから、工期の関係でございますが、これにつきましてはおおむね10カ月、これぐらいかかる予定でおります。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） わかりました。

私が62年の質問のときに、館山小学校の数名の子供たちに — 当時の半澤市長さんに紹介いたしました、相生橋の感想作文を紹介いたしました、この作文にはこの橋の改良を強く望んでいる感情のこもった訴えがございました。後ほど庄司市長さんにこの作文をぜひ見て読んでいただいて — コピーじゃございません。当時の作文を持って参っておりますので読んでいただきまして、そしてこの橋のかけかえの促進を早急にさせていただきたくお願い申すものでございます。よろしくお願いいたします。

さて、次に2番目の質問に入ります。市道1045号線の汐入川の川沿いの道路でございますが、これは市道でございますけれども、もう大変な交通量 — 庄司市長さんラッシュ時にお通りになったことございますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） あります。混雑しておりました。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） 大変な市道の能力をもう超えておる、そういう道路でございます。幸いにも竹やぶを切っていただきまして非常に通る方が喜んでおられますけれども、何としてもいずれにしてもあそこ幅員を広げて、本当に拡幅整備をしなければもうパンク寸前でございます。したがって、お答えにございました河川につきましては県と協議しまして河川敷を使用していくというお答えがございましたけれども、聞くところによりますと富津から鴨川に抜けます県道に湊川という川があるそうでございますけれども、その川沿いに、その河川敷に鉄骨等で補強して建てまして、歩道をして道路の拡幅をして対応しているということを聞いておりますけれども、このような方法をこの1045号線道路に考えたらいかがかなと思いますけれども、この点いかがでございますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 3年ほど前だったでございますが、この件につきまして実は前の所長時代にその件について御相談したことございます。感覚的にはそういう活用方法もあるのではないかなというような回答をいただいたわけでございますが、実際に絵をかいてそれで検討させてほしいということになっております。したがって、これから計画を立てまして、そして具体的なお話し合いをしていきたいというように考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 2番永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） いずれにしても、このような状態の道路でございますので、早急な整備をぜひお願いしたいと思います。

次に、3点目に移りますけれども、これは県単事業、県費補助事業あるようでございますけれども、先ほどの御答弁によりますと小さな川、高水敷——いわゆる空間がないということで大変困難であるという御答弁いただきましたけれども、私はこの規模の川、小さな川でありますけれども、その川なりにやはり特色等があるわけでございます。したがって、そういった面から考えていただきまして、市民の憩いの場所、空間、そして自然に触れ合う場所、そういったものをこの川べりにつくっていただきたい、このように思

うんですけれども。お答えの中に底水路事業という言葉が出てまいりましたけれども、この底水路事業についてどのような事業なのか、説明していただきたい、規模ともに。そして、この汐入川——底水路事業と関係あるかどうか説明受けなければわかりませんけれども、この汐入川の干潮になりますと汚れた川底を露呈しまして大変見苦しい姿をあらわします。これも県等とお話をお願いしましてしゅんせつ等をして川の清掃をしたらどうか、このように私思いますけれども、この点いかがでございましょうか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 汐入川のヘドロといいたいでしょうか、上からの土砂の流れといいたいでしょうか、そういうものが毎年のようにかなり川上の方からも流れてまいりますし、御案内のように左岸の導流堤、これによりまして北西側の方から風波を受けますとそれを伝わって上の方に土砂が上がってくるということで、毎年のように市の方から要望いたしまして県において清掃をしておっていただいたわけでございます。その結果、試験的にということでしたしか3年ほど前から2カ年間にわたりましてさく板を設けまして、それで中央に土砂を寄せるように、そして流れによってその土砂を幾らかでも少なくするようというように試験的に県でやっていたわけでございます。しかしながら、どうもそれもうまいかないというようなことから、今度今実施しております底水路事業というようなものをやっておるわけでございます。

これはどういうことかと申しますと、河川の路床の一部を掘り下げまして、そこに干潮時に水等が流れ込む。そのときに一緒に付近にあります土砂もそこに呼び寄せるという効果をもたらそう、そして引き潮時にさらに外側にと持っていこうというのがそのねらいのようでございます。そして、浄化対策も図れるのではないかなというように、一石二鳥をねらっておるというのがこの事業でございます。現在やっておりますのが延長150メートル、幅員が10メートルということでございます。約8,000万の事業だということで聞いております。まだあと2年ぐらにかかるのではないかなということでございます。また、もう一つは導流堤を今右岸の方にもつくっておりますので、

それが完成しますとかなりあそこも川底にあります砂等もなくなってくるんじゃないかなということが期待されます。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） しゅんせつの件はいかがですか、川底の清掃、しゅんせつ。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 申しわけございません。しゅんせつは毎年のようにやっております。これは3月ぐらいまでに大体土砂が一番多くたまる時期がございます。そうしますと、その状況を見まして夏前に、6月ぐらいに大体清掃をしていただくように毎年それは実施しております。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） そのしゅんせつのやる箇所は富士見橋から下ぐらいまででしたか。要橋からあの辺もやっぱり潮引きますと相当川底が汚い姿をあらわしますけれども、どうですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 過去に二中の裏側まで大変堆積したことございます。これは要橋近くまで実施しておりますが、それ以降は大体富士見橋から下流であるということでございます。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） あの上流もぜひしていくようよろしくお願いいたしますと思います。

この汐入川は汐入川なりの特色等いろいろあると思います。川づくり、周辺の整備、環境整備私なりに考えてまいりましたけれども、まず排水処理施設の来年度完成によりまして——下流がハゼとかイナとかセイゴとかいろんな魚が多く生息するものと予想されるわけでございますけれども、現在の下流の富士見橋——海から見て左側でございますけれども、要橋までの間のき

れいな堤防でずっと県でやっているようでございますけれども、このくらい高くてちょっと釣りもなかなかできないような状態であります。そんなわけで、この堤防何カ所か間に魚釣り等が楽しめる場所をつくったらどうかな。これも周辺整備の1つの考えと私は思っております。

また、三福寺橋から下町の汐留橋までの海から見た左側桜並木——これからもう桜の時期でお花見の時期でございますけれども、土手になっておりますけれども、ちょっと狭いような感じでございますけれども、この場所に数カ所でも町の、またお年寄りの方々が憩えるような空間を数カ所設けまして、お花見等が楽しめるそういった空間をつくったらどうかなと考えております。

また、汐留橋から菱沼橋と申しますと館山病院のところの橋でございますけれども、やはり海から見た下町交番側、左側の川沿いにいわゆるニシキゴイ等が非常に多く見受けられまして、尺5寸——大きいマゴイ、ニシキゴイを見て近隣住民——僕も毎日見て楽しんでおるわけでございますが、非常によいところでございます。この川沿いにいわゆる散策道など設けたらどうでしょうか。私の提案でございますけれども、考えてみてくれませんかどうか、いかがでございましょうか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） まず、最初の二中の裏あたりと申しましょうか、あの辺にいわゆる釣りのできるようなものができないかというようなお話がございましたが、実はこれは3年ほど前にやはり県の土木と話し合いをいたしたことがございます。これは釣り桟橋ということではなくて、何かやはり川辺の遊び等ができないだろうか、そういうものが汐入川でできないだろうかというようなことで話し合ったことございます。そのときに、実は汐入川も台風時期には非常に水位が上がるということであれ以上川を狭めるわけにはいかないという、そしてそれによって、そういった工作物をつくることによって上流から例えば何か流れてきてそこで水がたまるようなことがあり人家に影響を及ぼしたのではなお困るかというようなことで、実はそれは断念をした経緯がございます。しかしながら、今おっしゃいますようにそれより上の方で何かそういうような、しかも築堤よりも内側でそういうような

ポケットパークといひましようか、あるいは散策路、そういうものができないかというやうな御質問でございましたんで、これらにつきましてはまだ私も現地も余りよくわかりませんし、正直言ってわかりませんので一応調査させていただきますして、可能性のあるものについてはひとつ積極的に県にアタックしてみたいというやうに考えております。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） いずれにいたしましても、現在世界的に環境保全問題が大きな課題となっております。私は、これらの事業を通じまして市民の1人1人が自然環境を大切にする意識の高揚が図れればと念願するものでございます。

以上で質問を終わります。どうもありがとうございました。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で2番議員永井龍平君の質問を終わります。

次、11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 既に通告をいたしました7点について御質問を申し上げます。

まず第1点は、リゾート開発計画の見直しについてであります。市長さんはさきの市長選挙の際に、現在計画されている中央企業主導の幾つかのリゾート開発プランを地元住民の目できちんと見直す必要がありますと主張されました。この点については、12月市議会で公約どおりちゃんとやってくれるものかどうか尋ねた私の質問に対しても、市長は改めて現行の計画に検討を加えることを表明をされました。しかしながら、施政方針ではリゾート開発計画の見直しの言葉はなく、現行の房総リゾート地域整備構想に基づく諸計画を推進するとうたっております。新年度の施政方針を読む限り、この選挙公約はどうなってしまったのか、12月議会における御答弁はどうなってしまったのかと危惧を感じないわけにはまいりません。施政方針は選挙公約の放棄ではないかと思うのでありますが、この点についていかがお考えでありますか。

第2点は、市内には3つの民間大企業によるリゾート計画がありますが、そのうち太陽海岸平砂浦計画と南たてやまマリnpark計画はゴルフ場など、いわば丘の開発とともにマリーナなどの海の開発を計画の重要な柱に位置づけています。市はこれまでゴルフ場の単体での開発は認めないという立場を繰り返し表明してきましたが、たとえ諸情勢の変化があってもこれまでどおりゴルフ場単体のリゾート開発はあり得ないと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

第3点、もう一つの民間リゾート開発計画は大林組のレインボータウン計画ですが、これはゴルフ場と住宅開発が柱となっております。この計画については土地取得が進んでいないと聞くわけですが、この開発計画の現状はどのようになっていますか、お聞かせをいただきたいと思います。

第4点が、リゾートマンションの進出計画が次々に出てきているわけですが、こうした中で県は本年7月から建築基準法に基づく県条例によってこれらの大型建築物に対する規制を強化するための条例を提案しております。この条例に期待もしているところでありますが、同時に既に具体的な県条例案が示されている中でいわゆる駆け込み申請が懸念されるところであります。市はこれらの駆け込み申請に対して、12月市議会では県と協議しながら適切な指導をしていくとしていますが、どのようになされるのですか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に大きな第2点、国民健康保険税の引き下げの問題についてお尋ねをいたします。国民健康保険税——国保税は大変に高い。さきに行われましたお隣の白浜町の町議会選挙に当たりまして、最大の争点の1つになったのがこの高い国保税を引き下げるかどうかということでありました。館山市民にとっても、この高い国保税を何とか引き下げてほしいというのは全く同じであろうかと思います。12月市議会の私の質問に対して、市長は4月から9月までの医療費がふえているので引き下げは難しいとの判断を示されておりましたが、その後の動向から見て来年度の国保税についてどのようにお考えでありましょうか。既に国保税は他の医療保険に比べて加入者の負担が大変高く、

例えば政府管掌健康保険に比べて同じ収入で試算してみると約2倍にもなっており、これを放置しておくことは社会的な不公正であります。こうした中で、半澤市政が一般会計からの助成に踏み出したことは評価すべきことでもあります。このとき社会党が一般会計からの繰り入れに反対しましたが、その主張は論外であります。しかしながら、この繰り入れについてはその基本的な考え方として前々年度の不納欠損や前年度の減免した額相当分を一般会計から繰り入れるとしたものでありまして、したがって社会的な不公正を是正するとの積極的な視点に立ったものとは言い得ない限界を持ったものでもありました。国保はもちろん相互扶助の原則を持つ医療保険であります。しかしながら、総体的に収入の低い階層がその中心となっており、収入に対する保険税の負担は既に限界を超えているのが現状であります。一般会計からの繰り入れについての従来の考え方はそれなりに評価できるものの、さらに一歩突っ込んでそのルールそのものを考え直して一般会計からの助成額を増額する必要があるものと思います。

具体的にお尋ねをいたしますが、90年度国保会計決算の数字から見ますと、国の事務費負担金の4,800万余円に対して実際の総務費として支出しているのは約7,000万円にもなっております。いわゆる超過負担が2,000万円にもなるのではないかと思いますのであります。国保税は医療費に使われるとしておりますが、現実の決算からは市職員の人件費などの事務費の超過負担分を負担していることになります。国の事務費の基準が低いとの問題もあると思うのであります。この事務費の超過負担分は少なくとも国保加入者の負担とすべきではないと思うのであります。当然一般会計からの繰り入れをすべきであります。一般会計からの助成の増額について従来のルールからさらに増額する方向で御検討するお考えはありませんでしょうか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、大きな第3点であります。幼稚園30人学級及び小中学校35人学級についてお尋ねをいたします。幼稚園の教育は先生と子供1人1人とのスキンシップが大事であります。こうしたことから、市は88年から幼稚園の学級編制基準を従来の40人から35人に引き下げをいたしました。これは県内では

茂原市に次いで2番目の実施でありました。大変進んだ施策であったことと思います。その後国の基準自体が35人に引き下げられましたが、こうした中で私は市は幼稚園30人学級に向けて踏み出すべきときに来ているのではないかと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、新年度をもって小学校、中学校の40人学級が完結することになります。小中学校についても一刻も早く35人学級に踏み出していくことが求められていると思うのでありますが、この点についていかがお考えでありましょうか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、大きな第4点であります。館山駅前自転車置き場の増設についてお尋ねを申し上げます。館山駅前の自転車置き場の現状は、置き場の数が絶対的に少ないために自転車が歩道にあふれ歩行者の交通障害になっているありさまで、観光都市館山の表玄関であるべき駅前であるだけにその看板が泣いていると思います。駅前の自転車置き場の利用者の実態は、鉄道利用者がその大部分を占めていることと思います。自転車駐車場の整備に関する法律では、鉄道事業者は自ら自転車駐車場を設置するか、それができない場合地方自治体が設置するのに対して協力をしなければならないとされております。館山駅前周辺には旧国鉄——現在のJRまたは清算事業団所有の用地がたくさんあります。これらの用地の提供を受ける必要があると思うのでありますが、いかがお考えでありますか。市長は、駅前自転車置き場の増設の問題について現況と対策についてどのように考えておるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、大きな第5点であります。亀ヶ原岩崎橋周辺の水害対策についてお尋ねを申し上げます。一昨年大雨の際、平久里川が亀ヶ原の岩崎橋周辺で氾濫をし、一部ではボートで避難したことなどまだ記憶に新しいことと思います。平久里川が大きく蛇行をし、しかも岩崎橋の橋台によって川幅が狭められていることがその一因かと思います。川筋を変更することはできないとしても、岩崎橋の橋台を広げる対策は急ぐべきことと思います。この岩崎橋は県道和田丸山館山線であり、県道改良が行われると聞いておりますが、これ

らの水害対策を十分に考慮してのものとして計画する必要があると思うのですが、いかが対策はなっておりますか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に大きな第6点、池田団地、下真倉、南町蛭子神社周辺の水害対策についてお尋ねをいたします。境川とこれに接続する代田排水路は、その接続部分で周辺の排水を十分に処理することができないためその上流部分でいつも水があふれております。このため、周辺の下真倉、長須賀、池田団地、南町蛭子神社周辺などの住民に多大の御迷惑をおかけしております。問題は、境川と代田排水路の排水能力を超える水が流れ込むことにあります。施政方針によりますと、生活に密着した道路及び河川の改良や整備を地域の実情に即して実施すると強調しているところであります。この地域の対策は年来の課題であるだけに、新市長が積極的に取り組むことを期待したいと思います。

そこで、お尋ねをするわけではありますが、主要地方道館山白浜線バイパスが新年度では用地取得に入るとされておりますが、この館山白浜線バイパスは境川や代田排水路の集水地域の中を貫通することになります。この館山白浜線バイパスの道路側溝に周辺の雨水を排水することができるようにすれば境川や代田排水路の集水面積を縮小することになり、この地域の水害問題は大きく改善することができることになると思うのですが、いかがお考えでありますでしょうか。これは県の事業であります、市は積極的に働きかけていく必要があると思うのでありますが、いかがでありますか。

次に第7点、財政調整基金残高の現況と財政運営についてお尋ねをいたします。昨年度の決算では財政調整基金の残高が約15億円ほどにもなっております。提案されている補正予算案では、新たに今年度に8億円を積み立てることとしております。しかも、当初予算では取り崩しを予定していた3億円も取り崩さないことにしています。この結果、23億円もの財政調整基金残高に今年度末はなることと思われます。高い国保税の問題や都市計画税の税率引き下げなど、市民のためにこれらの財源を積極的に活用することが求められていると思うのでありますが、市長は財政調整基金残高の現況とこの財政運営についてどのようなお考えに立っておられるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後１時再開いたします。

午前 11時52分 休憩

午後 1時03分 再開

◎議長（渡辺昭夫君） 午後の出席議員数24名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議長の報告

◎議長（渡辺昭夫君） この際、申し上げます。

平成３年度予算説明資料中一部誤りがあり、訂正されたいとの申し出がありました。お手元に配付の正誤表により訂正願います。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第１のリゾート開発計画の見直しについての小さな第１点目、施政方針にリゾート計画の見直しがないとのことですが、12月議会でも御答弁申し上げましたように、現在進めております民間リゾート計画は複合開発計画であり、雇用の場や地域にもたらす経済効果が大きいと考えております。また、これらの計画を推進するに当たっては自然環境との調和に留意しなければならないことは当然のことでございます。こうした観点に基づいて地域住民及び関係機関と検討を重ね、民間事業者を適正に誘導しているところでございます。

次に小さな第２点目、ゴルフ場単体でも推進するのかとのことですが、第１点目で申し上げましたように仮に諸情勢に変化が生じたとしても、複合開発で地域振興に寄与するかどうか検討し、寄与する計画は推進し、ゴルフ場単体では進めない方針でございます。

次に小さな第３点目、館山レインボータウン計画の状況でございますが、

事業者より現在の状況では進められないとの申し入れがございました。

次に小さな第4点目、リゾートマンションの駆け込み申請に対する市の指導についてでございますが、千葉県建築基準法施行条例が改正されることになり、平成3年3月7日公布、平成3年7月1日施行される予定になっておりますが、館山市では既にこの条例改正案に基づき指導しているところでございますが、現在のところ駆け込み申請と思われるものはございません。今後も改正条例が施行されるまでの間同様に指導してまいる所存でございます。

次に、大きな第2の国民健康保険税の引き下げについての御質問でございますが、12月議会におきまして医療費の動向等を勘案いたしますと国保税の引き下げは難しいとお答えいたしました。国保税引き下げのために一般会計からの繰り入れ基準の見直しをとの御指摘でございますが、私といたしましては現行の基準を尊重しながら引き上げだけは極力避けたいという基本的な考え方でおります。したがって、現在も国保税の引き下げは難しいという考えは変わっておりません。

大きな第3の幼稚園30人学級の問題でございますが、この問題は教育長から答弁させます。

次に大きな第4、館山駅前自転車置き場の増設についての御質問でございますが、駅前自転車駐車場につきましては位置、規模等の見直しを含めその用地の確保につきましてJR関連用地等の取得に向けて要望しているところでございます。今後も駅周辺、市街地整備事業との整合性を保ちながら整備を進めてまいります。

次に大きな第5の亀ヶ原岩崎橋周辺の治水対策についての御質問でございますが、県土木事務所に照会いたしましたところ、下流域から年次的に河川改修工事を進めており、なお応急対策として亀ヶ原付近につきましては堆積土の除去を逐次行っているとのことでございます。また、岩崎橋のかけかえにつきましても検討しているとのことでございます。市といたしましても、その実現に向けて関係機関と協議してまいります。

次に大きな第6、主要地方道館山白浜線バイパスの排水対策についてでござ

ざいますが、事業主体でございます館山土木事務所に対しまして御質問の地域の道路排水対策は必要であると申し入れがしてございます。

次に大きな第7、財政調整基金残高の現況と財政運営についての御質問でございますが、財政調整基金の残高は平成2年度末におきましておよそ23億600万円となる見込みでございます。なお、平成3年度予算案におきまして5億5,000万円の取り崩しをお願いしてございますので、これを差し引きますと17億5,600万円となるところでございます。財政調整基金につきましては、御承知のように現行の地方財政制度の中で予算の単年度主義の補完的な役割として年度間の財源調整機能を有しているところでございまして、今後各年度の歳入規模との関連もでございますが、計画されている大規模事業や災害等を含む緊急を要する経費の財源として活用してまいりたいと考えております。具体的な事業費につきましては、財政状況や補助事業の採択の時期、さらに事業の振興状況等によりかなり流動的ではございますが、上水道事業におきまして南房総広域水道企業団への出資金で50億8,500万円、市水道事業の第3次拡張事業及び三芳水道企業団の第2次拡張事業等で13億4,200万円、館山駅西口地区土地区画整理事業関連経費で26億3,500万円、そのほかウェルネスリゾートパーク用地購入費、都市計画道路川名大賀線建設事業、公共下水道整備事業等、多額の資金を要する大規模事業が予定されているところでございます。

以上で答弁終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 答えいたします。

大きな第3の幼稚園30人学級の問題でございますが、1学級の幼児数は40人以下が原則となっておりますが、館山市では近隣市町村に先駆けまして1学級35人を基準としております。当面30人学級にするという考え方はございませんが、今後の幼児の推移を見ながら検討してまいりたい、こう考えております。

次に、小中学校35人学級の問題でございますが、40人学級が平成3年度を

もって完了する予定でございます。35人学級の実施については現在のところ当分考えられない問題であるかと思いますが、児童生徒数も減少しておりますので、将来の問題として県都市教育長協議会等で検討を加えてまいりたい、こう考えております。

答弁終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） リゾート開発計画の見直しについてでありますけれども、私はリゾート開発計画を市長さんは明確に選挙公約の中で地元住民の目で見直すことが必要だ、現在の計画は中央企業主導型である、こういう形で表現をされて見直しの必要を主張されていたんです。そういう点から見ますと、今のお話ですと一体見直しをするのかしないのかっていうことになりますと、どうも従来の計画を追認したんではないかな、こういうふうにとれるんですけれども、現在のは複合プランで自然環境とかそういうものとの調整を図って地域の振興にもなるからこれは是認して積極的に推進すべきものだというふうに、今の御答弁だと是認だというふうに——見直しという以上は問題があるから改めるということでありますから、これは大きな違いなんです。その辺どうなんですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 事務的な面から御答弁申し上げたいと存じます。

御案内のように、リゾート基本計画に掲げられております施設は市単独で見直すことは現状のところ困難でございます。それから、それ以外の施設といいましょうか、承認以外の施設、これらにつきましては見直すことは可能でございます。それから、基本構想に当たる施設の見直しは、例えば企業者が変わってきたというような場合であってもこれはその時点でいろいろ話し合いをして変えるべきことでございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 私市長さんの選挙公約についてはぜひ実行してもらいたいということをかねがね思っております。今の御答弁によりますと、

事務サイドという点から見ると市が今単独で見直しを進めるというのは、既にもうでき上がっちゃっているものですから、今さらもう大変な困難があって難しいという事務サイドのお話でありましたけれども、しかし一方で新しい状況も生まれておるといふ点はある必要があると思うんです。というのは、大林組ですか、これは大林組の方からもう進められないという申し出があった。すると、あのレインボータウン計画はやり手がもう嫌ですよ、これ以上やれそうもないといって自分の方から放棄をしてきたという現状であります。しかし、計画そのものは国の承認を得た計画として残っているわけでありませう。こういう段階で中央企業主導型で今まで進めたこの計画果たしてどうなるのか、当然大きな問題だろうと思うんです。このリゾートの問題について、住民の目、地元の目で地域の経済の振興になったり、本当に地元が豊かになっていくという方向でいわば見直しをしていく、向こうからチャンスが来たんです。今までは確かにもう決められちゃったレールに乗っていたわけですから大変難しいという言い方はわかります。しかし、今出てきている事態というのはそうではなくて、事業者の側からもうできないという話になってきている段階で、今こそ地元の目でどうなのかっていうことを改めて見直す絶好のチャンスではないかと思うんですが、こういう意味も含めて改めて公約どおりちゃんと見直しをしてほしいんだと思うんですが、いかがですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） いわゆる変更にあたりましては行政サイドの面からの変更をお願いするという場合もありましょうし、あるいは今おっしゃいますように企業側の都合によって変更という場合も考えられるわけでございます。今レインボータウンのお話が出ましたんですが、これらにつきましては今会社側の方からすれば今の段階ではちょっと進めるわけにいかないというような申し入れがございまして、一応県の方にはその旨もお話はしてございます。そういう経過をたどっているわけでございますが、これからいわゆる後継企業者、後継企業が出てくる可能性もあるわけでございます。また、我々といたしましてもそういったものを誘致いたしまして、できることなら3つのリゾート開発を進めたいというふうに考えるわけでございます。その

場合に — これは県が基本構想をつくりまして国の承認を得た事業でございますので、市が今の時点で勝手に変えるわけにはいかないわけでございます。これは当然県のサイドからその変更を起こさなければならないということが1点ございます。もう一つは、その企業者側が後継者ができてきた時点でいろいろその企業者と折衝し、そして計画を練り直しまして、さらにいいものになればそれ相応のまとめをいたしまして、そして県、国に対してこういう事情ですよということを御協議申し上げ、そして変更が可能になるかという段階でございます。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 確認をしておきたい問題があるんですけども、この大林組のレインボータウン計画、事業者側からもうやれないという意思表示がされたという中で、恐らく最大の問題は土地の取得問題だろうと思うんです。これがやはり進まないというふうに聞いておりますから、かつてこの議会の場で土地の取得については企業側に市が率先して提供すべきだ、こんな議論がされたことはご存じかと思うんですが、まさか大林組はもう撤退だ、いや撤退しないでくれ、こうやってあめ玉しゃぶらせるから — というのは、具体的には土地を提供してあげるから、市が便宜を図ってあげるから何とか来てくれ、あるいは大林組にかわる企業に来てくれ、そういうことは絶対ないというふうに考えてよろしいですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 確かにそのような市でできれば土地を買い上げてもらえないだろうか、こういうようなご相談はございました。しかしながら、それはきっぱりと断ってございます。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 確かに、国、県という中で決まった計画ということでもありますから大変難しい問題があることは百も承知であります。しかし、これは市長さんが公約をされたことでありまして、市民に対する責任でもあ

りますので、その辺のすり合わせといいますか、これは非常に政治的な判断を含めまして十分今後の市長さんの手腕に期待をかけたいというふうに思っております。

次の問題であります、マンションの問題については今のところ駆け込み申請はないし、今後もこの条例の趣旨に沿って指導をしていくということでありましたからそれはそれで重要だと思うんですが、同時に館山市の指導要綱——リゾートマンションに関する指導要綱ですとか、宅地開発指導要綱ですとか、これまで一定の意義と役割をこのマンションの問題等について持ってきたかと思うんですが、こうしたことは県の新たな要綱ができたからもはや意味がないというふうにお考えになっておるのか、いや地域の実情に即して——あれは全県的な問題として大きな意味があるんですが、地域の実情の中では現在の館山の指導要綱さらに上乘せになる部分もありますね、この内容によりましては、規制の点では。そういう点を含めましてこうしたことは尊重して今後も続けていくということによろしいですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 館山市リゾートマンションの建設に関する指導要綱の改正につきましては関係課と現在協議中でございますが、県条例の改正案も出ましたので、これを踏まえまして一日も早く改正をしてまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） これまでの経緯もありますので、これまでの指導の中でされたこと——県の今度は指導っていうよりも法的な根拠持ちますから、これに触れればもうだめだということになるんですが、それには触れないまでも市の指導要綱の関係からいくと問題になるという部分、そういった部分はやはり重要な点もあるかと思うんで、地域の実情に即して考えていただきたいなと思っております。

国民健康保険税の問題であります、国民健康保険が大変高い、こういうことで非常に問題になってきて、全国各地どこでも問題になっているわけで

すけれども、この館山市においても高い。こういう議論の中で、一般会計からの繰り入れをしてその軽減を図ろうということがされてきたわけですが、そのために3年間ですか、来年含めると4年間ってことになるのかと思いますが、一応保険税の値上げ、こういうものは極力避けたいということでありましたけれども、税率の引き上げはないというふうに断定はできませんか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 平成3年度の国民健康保険税の賦課確定につきましては、ご承知のとおり6月本算定時で決めるわけでございます。その理由としては、まだ医療費も確定しておりません。決算も確定しておりません。また、市民の所得に関する事項も確定しておりません。そういうことで、現在のところは市長の基本的な考え方はあくまでも引き上げだけは極力避けたいということでございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 市長は極力避けたいということで、事務担当としては避けられると見ていますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ただいま申し上げましたとおり、所得、決算、その他の要素が固まりません現時点では確答ができないと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 私は「しません」というふうにはっきり言い切ってほしかったなというのが気持ちなんですけれども、確かに今年度まだ3月末日まで若干の日にちもありますから、厳密に言えばこれから井戸水飲んでみんなが病気になったなんていう話でもあれば医療費がたくさんふえることもあるかもしれませんけれども、今のところだとそう大きなあれはないんじゃないかな、かなり具体的な数字がつかめてまとまっているんじゃないかなというふうに思ったので、事務サイドでもかなりのことが言えるんじゃないかなと思ったんですけれども、そういう点では残念ではあるんですけども、しかし極力値上げはしないということはそれはそれとして一応評価をしてお

きたいと思うんです。

そこで、私はこの過去3年間一般会計からの繰り入れをするその繰り入れの基準っていいですか、繰り入れの原則、考え方が、前々年度の不納欠損とそれから前年度の減免額の合計額、これを繰入金額として税の軽減に充てる、こういう考え方で進んでこられました。それはそれで非常に重要なことであった。税金を結果的に国保税を納められない人の分まで他の加入者が負担はしない、その部分については少なくとも市が市民の税金でもって負担をしていこうじゃないか、こういう考え方ですからそれはそれとして重要なことであつたと思うんですが、私は国保というのは国の委理事務ということになろうかと思います。したがって、事務費の負担については、先ほどお話ししましたとおりいわゆる超過負担っていいですか、決算で見ますと約7,000万円の総務費が支出しておるうち、国の事務費負担金として来ているのは4,800万。本来国が委理事務でやる場合は、事務費については全額国が負担するのが当たり前です。いかがですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 基本的にはそうと思いますけれども、ただ国としても1つの基準額を設けまして全国的にバランスを図る、均衡を図るという面もあろうかと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） そうしますと、国の基準っていうものがあるということになります。確かに、国保の担当者は何人で、その人の給料は幾らで、こういう基準が全部積算されて国の交付基準が来るわけです。具体的に——例えば国保の担当者に給料の高い人うんと配置すればそれは負担がふえることになりますね。そういう問題が出てくるわけです。そういう場合に、国の基準が低いんだっていうことが問題なんです。しかし、そのために出た差額の負担を国保の加入者が負担するということについてはいかがなものかな。それを国民健康保険の加入者は自分の医療費だと思って国保払っているわけですよ、国保税を。ところが、そのうちの一部は事務費に回されている。本来国が負担すべきものの事務費であるはずだ。しかし、国は基準しか払わな

いから、その基準との差額の分ってというのは国保の加入者が国保税で負担をしている。1万世帯でありますから約2,000円分、自分の国保税の負担のうち2,000円くらいは事務費負担分だ。それは市の職員の国保担当の方の給料、人件費を含めたそういう事務費の一部として支払われているということになるかと思うんです。いかがですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 国で見ます国保の事務費、1つの基準に基づきましたもの、これが事務交付金として来るわけでございます。実際に各市町村で行います事務については、ただいまご指摘のありましたとおり人件費、物件費それぞれ若干ずつ異なるわけでございます。やはりそういうことが各自治体にあるわけでございます。それがいわゆる超過負担という形で出てくるわけでございますけれども、現在のところやむを得ないんじゃないかというふうに考えています。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 超過負担が出ることはやむを得ないと思いますね、私も。それは国との間で超過負担をなくしてくれという運動はしていかなきゃいけないと思いますけれども、しかし現実に出るということがある場合はやむを得ないという面があるかと思うんです、出ること自体。しかし、その負担を国保の加入者に負担をさせるか、一般的な一般会計からの助成をしてその部分についての負担をするか、これはやむを得ないことだとは私思えないんです。これは市のサイド、市長さんのサイドでこの超過負担の相当分については一般会計から助成をすれば、加入者は事務費の負担については自分の国保税で負担する必要がないわけです。大体年間2,000万円ぐらいのお金です。先ほどの話だと23億円の貯金になるそうですけれども、今の財政運営の中でこの2,000万円っていうお金は確かに大きなお金ではありますが、しかしできない話ではないと思うんです。だから、そういうことに踏み出すお考えがないのかどうかということなんです。いかがですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 昭和63年度に一般会計から国保会計に繰り出し

をいたしました。その時点で1つのルールをつくりまして実施したわけでございますけれども、いろいろ慎重に検討しました結果現在の — 先ほど神田議員さんがおっしゃいましたけども、2つの方法で一つのルールをつくったわけでございます。これがやはり一番いい方法ではないかというふうに現在も考えております。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） そういたしますと、63年度検討して今の繰り入れルールをつくったと。私は今の繰り入れルールはそれはそれで大事なことだと思っております。それと、変更して新しい繰り入れルールにしろというのではなくして、現在の繰り入れルールに加えて新たにその分も含めて繰り入れルールにすべきではないか。大体2,000万さらに一般会計からの繰り入れを増額するべきではないかということ saying しているわけなんです。一番いいというふうにおっしゃいました。2番目にいい、3番目にいいっていろいろあるんです。これは2番目、3番目っていうのはそれぞれあるんじゃないかと思うんですが、3年をやったんですからもうこれで市民が国保は大変安くなっている、もう今までみたいな問題がないという声が出てきているかという全然出てきません。私も選挙が近いものですからあっちこっち駆け回りますと、国保が高いのは何とかならぬかっていうのはいまだに同じです。でも、この3年間何とか努力して値上げだけは避けてきたんですよ、その辺は理解してくださいよと私も話してきます。しかし、下げてほしいというのがもう率直な気持ちでばんと出てきます。ですから私は言っているんです。1番目ということでやったことは確かに値上げをしなかったという意味で重要だった。しかし、もうそのときに検討した2番目、3番目、4番目、5番目、6番目まであるんですか、それ以上についてももう一步突っ込んで新たな検討をしなければならないと思うんです。佐藤さんもそのうち国保の加入者になるかと思うんです。もう本当に高いです。払っている人はもう本当に身を切られるように高いんです。やっている人たちは国保の加入者じゃないですからわかんないのかもしれませんが、本当にこの国保は高いっていうのは

もうみんなの強い願いですから、そこを何とか踏み出す、検討していくぐらいのことは言えませんか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 一番いい方法と発言いたしましたけれども、2番目、3番目があるんじゃないかということですけども、言葉を変えますと現在のルールがベストというふうに考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 本当に、これは予算のときにでもまた詳しくお聞かせをいただいて、それまでに十分検討もいただいて、市長さんもひとつこの辺——前に国保のことはよくわからないとおっしゃっていましたが、まだ時間もありますから十分この国保は高いという声について市民の声をよくリサーチをしていただいてご検討いただきたいと思います。

幼稚園の30人学級の問題に移りますが、ご答弁ですと今後推移を見ながら検討をされていくようなお話でありましたけれども、これはそういうことじゃなくてもう少し具体的にお聞かせいただけるんじゃないかなと思ったのは、新しい5カ年計画の中に30人学級の問題が具体的な検討事項として載せられているわけです。ですから、将来の課題っていうよりもこの5年の間の話ですから、先ほどもお話がありましたけれども、平成3年度も5年のうちの1つですから、ずっと先の5年なのかすぐの5年なのか、どういう段階で——これはもう児童数の推移含めまして具体的な検討がされておるというふうに——教室の問題とか、あるいは教員の増員の問題ですとか、そういうことも踏まえてかなり具体的な検討がされておるのではないかなと思ったから聞いたわけなんです、もう少し踏み込んだお話はないんでしょうか。

◎議長（渡辺昭夫君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 具体的に検討しつつあります。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 教育長さんは、先ほど近隣に先駆けて35人ということで進んだと。これは千葉県80ある市町村の中で茂原市に次いで2番目ですから大変胸を張っていいことだ、館山市は幼児の教育について、幼児の教

育の諸条件の問題については胸を張っていい実績をつくったことだと私は思っております。しかし、もう既に国の基準自身が35人になったわけですから、もうそういう現状の中で今となってはもう胸の張れる話じゃありません。千葉県で最初にひとつ30人学級に踏み出すというぐらゐの条件や可能性が一番あるのは館山市なんじゃないかなと私も思っておりますので、そういうことを踏まえましてもこれぜひ早い段階で検討をいただきたいというふうに思います。

自転車置き場の問題になりますが、これも5カ年計画の中に盛り込まれておる中でありますから、用地の確保について要望中であるというようなお話でございました。これはもう本当に5カ年計画になると何回も出てきますね、この自転車置き場の話は。3カ所か4カ所ぐらゐ出てきましたか、これ何とかしたいという市長さんの強い意向がこの新5カ年計画の中にあらわれているのかなというふうに私も思いましたけれども、これは具体的にどういう計画、段取りになっておりますか、いつの時点を想定してこの自転車置き場の増設が実施というふうに考えられておるのか、お聞かせいただきたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 現在、この館山駅前の自転車置き場の関係でございすけれども、基本計画の中ではご承知と思ひますけれども、平成4年度に用地の取得を考えて交渉を続けているところでございす。いわゆる東口につきましては、平成4年度に用地の取得を考えて交渉を続けているところでございす。また、西口につきましては、自由通路の完成に合わせまして設置を検討してまいりたいということでございす。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 時間がありませんので、6番目の池田団地関係のことですが、館山土木の方に道路の排水対策ということで既に申し入れてあるということですが、これは県の白浜バイパスの中で集水面積のカットという形で、大幅に集水面積のカットができるというふうに今県の申し入

れの段階で県からの返事をもらっているのかどうか、その辺のいきさつはどうなっておりますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 今の段階ですと、道路構造の詳細設計がまだこれからという段階でございます。したがって、それらについて市の方とも協議することになっております。そういう中でさらにお願いをし、できる限りのことはしていきたいというように考えております。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） これは今こそ議論をしておかないとならない課題で、今の段階で——話がどんどん進んじゃってからだともうあと間に合わない話だろうと思いますので、この地域の住民のいろんな排水に対する要望等を含めまして市の方でつかんでいる点も大分あると思うんですが、この排水対策についてぜひとも県の計画に載せて大幅にこの辺の解消ができるような取り計らいをぜひともお願いしたいと思います。

最後に財政調整基金残高の問題であります。23億円っていう残高は大変大きな金額で、これは私が議員になってからもう十何年かたちますけども、こんなに基金残高を抱えたということは今までなかったことで、まさに異常かなということなんでありますけども、何も館山市に限ったことじゃなくて全国同じような状況があるようでありますから、今の金余り現象といいますか、そういうものが地方自治体の中で大変進んでいるということを示しているという実態を今度の中で明らかになったと思うんですが、上水道ですとかあるいは西口の問題ですとか、かなり大規模な予算が今後かかるだろうということではあります。この金額は同時にまた国から、あるいは県からの補助金等も含めまして市で単独で持つ事業費ではないと思いますので、単純にこの金額だけでは議論できないなと思っております。先ほど示された数字を含めまして——時間があればなんでこの財調の問題についてはまた別の場で改めてご質問をしていきたいと思っております。

終わります。

◎議長（渡辺昭夫君）　以上で11番議員神田守隆君の質問を終わります。

次、18番議員日下君敏君。御登壇願います。

（18番議員日下君敏君登壇）

◎18番（日下君敏君）　これからひとつ質問をいたささせていただきたいと思えますけれども、きのうが24節気の1つの啓蟄ということで、地中の温度も緩んで虫が出てくるときだそうございまして、きょうがまたぼかぼか陽気でありますから、気候的に大変ようございますんで、ひとつリラックスをしておつき合いを願いたいと存ずるものでございます。

この3月議会の冒頭で庄司新市長より施政方針を聞きましたものですから、私はこの庄司新市長の施政方針を受けてひとつご質問を何点かさせていただきたいと存ずるところであります。平成3年度の予算も編成されました。庄司市政にとりましてはこれが最初の予算編成でありますし、実質的にはこの予算をもって新市長の市政が始まるということであろうかと存ずるわけであります。また、この3年度は第2期の館山市の5カ年計画のスタートの年ということでございますから、その基本計画もご説明によりますと「新たな飛躍と調和を目指して」という大変格調高いサブタイトルのついたものでございますんで、この平成3年度は大変庄司さんにとりましてはエポックメイキングな重要な年になろうかと存ずるわけであります。

この施政方針を聞きましてまず感じましたことは、海洋性リゾートタウンのまちづくりということを大変強調いたしております。この海洋性リゾートタウンがいかなるものであるかはひとつ後刻いまして詳しくお聞きするとして、この施政方針について概括的に申し上げれば大変よくできたものであると率直に評価をいたすものでございます。5つの重点施策を掲げまして、第1が生活環境都市づくり、第2が健康福祉都市づくり、第3に文化教育都市づくり、第4に産業都市づくり、そして最後に5番目でコミュニティの都市づくりをやりますよという5つの重点施策と申しますか、項目を挙げまして、それ自体は大変に意欲を感じますものでございます。また、予算規模も今年度一般会計128億8,800万、対前年度当初比で11.7%でございますか、10%の伸びを超えたのは実に8年ぶりということでございますんで、大

変意欲的な予算編成をなさったということは率直に認めるところでございます。ただ、私思いますに、この施政方針のパターンといいますか、型そのものが従前の半澤市政とほぼ同じパターンでございまして、大変言葉が悪うございますが、目をつぶって聞いていてだれかが読めば半澤さんと同じような施政方針のパターンではないかなというふうに感じた方も多かろうと思うわけでございます。これは1つには役人さんのおつくりになった作文をベースにしてつくられたからかなというふうに思うわけでございますが、庄司市長においては政策を掲げまして昨年選挙にしっかりと打ち勝ってきたわけでございますから、庄司色という政治理念と申しますか、そういうものをいまいしこの施政方針にちりばめてもらえればもっと斬新なものになったのではなかろうかな、こういうふうに存ずるわけでございます。

そこで、第1点の質問でございますけれども、庄司市長は昨年の選挙で公約いたしました事項について新予算にどのような形でそれを盛り込まれましたか、総括的にお聞きいたしたいと存ずるところでございます。また、庄司色がやや希薄ではないかというふうに私思ったんでございますが、その辺についてのご感想があればお聞かせ願いたいと存ずるところでございます。

次が国民健康保険税でございます。私自体もこの国民健康保険税につきましては過去何度かお聞きいたしてまいりました。ただいまも神田議員さんの御質疑がございましたけれども、国民健康保険税はもう既に高い、私もさように思うわけでございます。しかしながら、じゃそれを解決できるのかといえますと、大変一館山市長の力量がいかにほどでありましてできないということも私も重々承知いたしておるところでございますけれども、それにしてもやはり高いということで大変重要な問題だ。あの主義主張の違う神田さんが――私は保守でございますが、私は別に神田さんと相当似ているということではございませんですが、重要な問題だから多分ダブった御質問になろうかと思うわけでございますが、重々過剰要求かもしれないということを理解させていただいた上でご質問をいたしておるわけでございます。平成3年度の国保の会計が31億 7,088万 3,000円ですか、対前年度当初比 1.4%。これを1世帯当たりの平均調定見込額で見ますと、15万 4,966円、 3.9%当初

比で増でございます。1人当たりの平均調定見込額が6万8,699円、ここに至っては対前年度比7.5%であります。これ再質問の方で言いますけれども、この1世帯当たりの平均調定見込額は何と平成2年と比べますと3倍の伸び率なんです。元年から2年が1.2%、ですから伸び率だけ見ますともう3倍です。つまりこれでは私もやはりこの国保税は高い。下げてもらうまではいかないまでもひとつ前年度並みにやっていただきたいということから申しますと、これはいささか上げ過ぎではなかろうか、なぜかようなことに相なったのか、ひとつお聞かせ願いたいと思うわけでございます。過剰な、オーバーな言葉で申しますと怨嗟の聲が満ちているとは申しませんが、時折怨嗟の声を聞くわけでございますので、この国民健康保険税は極めて高い税額となっております、これが軽減策をとることができませんか、そして並びに国保税に対する市長の基本的な考え方をお聞きいたしておきたいと存ずるものでございます。

次が大きな1点の小さな3点目と申しますか、リゾートでございます。このリゾートもただいま神田議員とダブるわけでございますけれども、とにかく平成元年から2年にかけてはもうリゾート鳥が全国各地を鳴きまして、どこへ行ってもリゾート、リゾートで、房総地方も大変なとにかく土地ブームに至ったわけであります。上昇率80%、100%ざらというような大変な事態になったんですけれども、バブル経済の崩壊によりまして一挙にこれが冷え込みまして、株安、土地安、現在のところは大変冷えた状態になってきているのが実情でございます。先ほどの御質疑となるべく重複いたさないようにしようと思うんでございますけれども、館山市関係では先ほども御議論がございました重点整備地域に指定され、そして3つの計画がある。マリンパーク計画に、ただいま問題になりましたレインボータウン計画、さらに平砂浦の太陽海岸平砂浦計画ですか、この3計画があるということでございますが、とりあえず私の御質問は総合保養地整備法——リゾート法に基づく計画は現在どのように進んでおりますか、当初の予定どおりになっておりますかどうか、またリゾートに対する新市長の、この際でございますから、基本的な理念をお聞かせいただきたいと存ずるところでございます。実はこのリゾート

法っていうのは — ここで申すのも何でございますが、私は最初から法律に基づいて国民を休め、休めというのはいかなものかなというふうには実は存じておったんでございますが、こういう状況下の中ではお答えの中では市独自の考え方がなかなか打ち出しにくいというようなことでございますけれども、海洋性リゾートタウンの絡みとの中でもこの辺でじっくりと考えるべきときではなかろうかな、かように存ずるわけでございます。

次が第4点目の城山公園の問題でございます。城山公園、これにつきましては施政方針の中で庄司市長が、「より市民に愛され、利用される都市公園を目指します」という文言が入っておりますんで、私もやはりこういう質問をするにはこれはもう一度見ておかなくちゃまずかろうなと思ひまして、ひな祭りの3月3日の日曜日にぶらぶらとあの公園に上ったんでありますけれども、大変あの日はやはりきょうみたいにいい天気でありましたから、家族連れが三々五々参っておりました。城山公園の感想を申し上げますと、私も最近久しぶりに行ったんでございますが、大変なかなか整備されたものだなと存じました。彫刻の径ですか、あそこなんか立派なものです。各種植物とか、ツバキとか、万葉の径とかいろいろ整備されていて、私も行政視察等々で各地を回った折によく城址公園等々の案内を受けますけれども、私の感じでは城山公園の規模こそこじんまりしておりますけれども、なかなか大変よく整備されている。さすが半澤さんが在任中大変ご執心になっただけの公園に育ったのではなかろうかと実は存じたわけでございます。

問題の茶室及び日本庭園でございますけれども、これも大変立派な瀟洒なものでございまして、茶室ももう本格的なものです。私は全くお茶は門外漢なんですけれども、あれは大広間のこっちに小間とかと言うそうでございますが、何か4畳半だか3畳のにじり口等々が — 本格的なお茶室があります。大変建物も立派です。その周りを取り巻くように日本庭園がありますが、これも規模的には小さいんですが、なかなか枯れ山水はあるし、わき水のようなものを使った小川がございまして、大変立派なんだなと思いました。ただ、奇異に感じましたのは、その次の、上の城まで来ていますけれども — ついでに言いますとあの城が、私は石垣のない城っていうのは今残念だ

ったなと思うわけです。あれだけの半澤さんでありながら — やっぱりに城には石垣がつきもので、うたの文句じゃないけど、人は石垣、人は城っていうようなもので、城と石垣はつきものなんです。ですから、あとあそこへ10メートルほどの石垣があれば大変立派な、より立派な城というか、博物館というものではなかろうかなと思いますが、今それ言ってももうせん方ないことでございますけれども、回ってまいりました方々はその日本庭園と茶室は全く入れないわけです。入れないと言った方が正解だろうと思うんです。ですから、これはもったいない。やはり茶室があれだけのものがあるわけでありますから、この茶室をやはり広く一般に開放すべきじゃなかろうか。場合によってはあそこに事務の方に矢がすり着物のひとつも着せて、これはお手前って言うんですか、お茶でもやって、とにかく観光客で見たい方にはどんどん入れていただく、見ていただく、日本庭園も立派だから見てもらう。ちょうどこっちから門があってこっちへ抜けるようにできていますから、そのようなサービスをすべきだなと感じたわけであります。私も公園を見てまして、確かに半澤さん好みの文化の香り高い公園にはなりましたけれども、ちょっとやはり冷たいといえますか、おつにすましたような感覚の公園になったのではないかなと思うわけでありまして、やはりショー的な、人間味の温かいような公園にすべきであろうと私は思ったところであります。

質問といたしましては、城山の茶室は広く一般に開放すべきものと考えますが、市長はどのようなお考えをお持ちなのか、御教示を願いたいと存ずるわけであります。また、入園者の出入りなどにもっと利便を図るべきだと思いますが、いかがでございましょうか、こういうことでございます。

以上が施政方針関係でございまして、次に大きな第2点目、旧館山幼稚園の跡地でございますが、これもまた次の田沢議員さんとこれ重複いたしております。しかし、一応申し述べますれば、旧幼稚園の敷地が館山小学校の運動場に接続してあるわけでございますけれども、ほぼ700坪に近い結構大きな土地が遊休地と申しては大変失礼ですけれども、長年 — 聞くところによると59年からというふうに聞いておりますが、59年来そのまま、未利用のまま放置されておるということの中で、現在のところ何か駐車したりいろんな

ことをやっておりますけれども、あそこの館山幼稚園の跡地というものはい
ま少し有効に活用されてしかるべきものと存じますけれども、市御当局の御
見解はいかなるものでありますか、お聞かせ願いたいと存ずるものでござい
ます。

最後の大きな3点目、館山市の庁舎の管理についてでございますけれども、
この問題ちょっと今までの問題とは違ひまして抽象的に私の方の質問を出し
まして大変恐縮でございます。ですから、1点だけお聞きしまして、そのご
答弁によりまして再質問の中でいろいろお聞きいたしていきたいと存ずるわ
けでございます。その質問の内容は、過日2月でございますか、人づてに聞
いたところによりますと館山市の庁舎内の会議室で館山湾に噴水をつくる
ということで会議が持たれたということを仄聞をいたした、人づてに聞いた
わけでございますけれども、一体いかなる会議であったのか、さらにどのよ
うな内容であってどういう方が御出席なさったのか、その辺のことをお聞き
いたしたいと思います。この問題は御答弁によりましてひとつ再質問をさせ
ていただきたいと思います。

ひとつこれで質問終わりますが、市長の御簡潔なる御答弁をお願いいたす
ところでございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 日下議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の小さな第1点目、市長選挙での公約事項と新年度予算等の関
係についての御質問でございますが、館山市基本構想は西暦2000年を目標と
し議会にお諮りして定め、行政運営の基本的指針となるものでございます。
将来都市像及び施策の大綱、さらには基本計画を踏まえ、私は市長選で掲げ
ました方針を念頭に置きまして、安房郡市の中核都市として調和のとれた地
域づくり、まちづくりを目指して平成3年度の予算編成を行いました。特に、
地域振興の柱でございます海洋性リゾートタウンの推進を図るために、中核
としてのウエルネスリゾートパーク事業に着手してまいります。さらに、産
業振興対策を推進するとともに、館山駅周辺市街地整備、上水道、公共下水

道事業に加え、特に日常生活に密着した生活道路の整備など都市基盤整備を重点に、福祉の向上、教育、文化、スポーツ振興などの施策を総合的、計画的に展開してまいりたいと考えております。また、多様化、高度化する行政需要に対応するため、経済部を経済部と建設部に分割する等組織を整備し、諸施策を積極的に推進してまいります。さらに、長寿健康都市宣言を行いました館山市にありまして、健康対策も踏まえスポーツ施策を推進するためスポーツ課を新設するなど、市民と行政のかたい信頼のもとで英知を結集して市民本位の市政を展開してまいります。

次に小さな第2点目、国保税の軽減策と基本的な考え方についての御質問でございますが、平成3年度の当初予算としての国保税は過去5年間の医療費の支出状況を勘案して積算いたしました結果、前年度比で上回ったところでございます。確定税額は冬期分の医療費の支出が確定する6月の本算定を待たなければなりませんが、先ほどもお答えしましたとおり国保税率の引き上げは避けたいと考えております。

次に小さな第3点目、房総リゾート地域整備基本構想に掲げられました諸プロジェクトの進捗状況についてでございますが、いずれも大規模な複合開発計画でございますので、各プロジェクトにより差はございますが、当初の計画どおりに進んでいないのが現状でございます。

次に、リゾートに対する私の基本理念を申し上げますと、館山市の豊かな自然環境と調和し、しかも雇用の増大や地域経済への波及効果等、市民にプラスになる計画を推進してまいりたいと考えております。

次に小さな第4点目、城山公園の茶室を広く一般に開放してはどうかとの御質問でございますが、茶室の利用につきましては茶会のほか、俳句の会、短歌の会、華道等に利用されているところでございます。この茶室をさらに幅広く市民の方々に御利用いただくため市民の代表者による検討委員会を設けまして、提言をいただくとともに運営面につきましては文化団体を所管する教育委員会に移管しまして、なお一層の利用促進を図ってまいります。

次に大きな第2、旧館山幼稚園跡地の有効活用についての御質問でございますが、基本的には市が行う事業の代替地として利用してまいりたいと考え

ておりますが、現況を踏まえ有効活用について今後さらに検討してまいる所存でございます。

次に、大きな第3の市庁舎の管理についてのご質問でございますが、去る2月21日午前10時から市役所2階会議室において、館山船形漁業協同組合代表者と観光協会代表者による館山湾の噴水問題について話し合いが行われました。

以上で答弁終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） どうもいろいろ御答弁いただきまして納得するところは納得させていただきまして、二、三お聞きいたすところもございますんでひとつ再質問をさせていただきたいと思っておりますけれども、第1点目の市長の新予算等々でございますが、これから市長が実質的にただいま御答弁いただきました事項について鋭意実施なさるわけでございますんで、ひとつ柔軟な市政を展開なさいますよう要望いたしまして、この第1点目は質問は打ち切ります。

第2点の国保税でございますが、先ほども言ったんでございますが、私も神田さんとは主義主張が全く違う者でございますけれども、今度この国保税についてはほとんど主張が同じでございますして、やっぱり国保税が高いということはこれはもうどこへ行っても聞くわけでございます。じゃ、高いからどうしたらいいかといひましても、それこそ医療費の絡みの中で解決できない、抜本的にはそれこそ従前から言われておりましたような保険の一本化というところまで待たなくてはならぬということであります。これはもう答弁を聞かなくてもそういうことしかないわけですが、そこで対症療法的に申し上げれば、この国保税はもうこれ以上上げてもらっては困ると思うわけです。今税率の方は引き上げはいたしませんという明快な御答弁をいただきましたんで、それはそれでひとつ了解させていただきますが、3年度の15万4,966円というともう先ほども申しましたように3.9%の前年より伸びになっているわけであります。これはやはり本算定時の6月の時点でひとつほぼ同額並みに抑えてもらわんきゃいかぬ、そう思うわけですが、これ

は一応税率の方は上げませんということがいただけましたんでそれはそれで結構なんですけれども、あと一般的な問題といたしまして、私は現在先ほど神田議員の中で御議論が続きました一般会計からの繰り入れ、これは私も賛成なんです。私ももうそれしかなかなかろうという者でございます。ただ、このルールを一応決めました。先ほど来言っております前々年度の不納欠損分プラス前年度の軽減分を幾ら、ほぼこれですと 2,500 から 400 ほとんどもうこれ固定なんです。それでいろいろ聞いてみますと、この近隣市町村——鴨川、富津、茂原、君津、木更津、勝浦、こうありますが、勝浦と鴨川は一般会計からまだ繰り入れをしていないと思うんです。富津、茂原、君津、木更津は一般会計からの繰り入れをしておると思うんですが、そういうことで今のことはよろしいですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 一般会計からの繰入金の状況でございますけれども……

◎18番（日下君敏君） 簡潔で結構です。イエスカノーかで、今の。鴨川、勝浦が入れていない、ほかのところは入っていますよ、そうでございますかということだけで結構です。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 木更津、佐原、茂原、君津、富津が入れております。

◎議長（渡辺昭夫君） 日下君。

◎18番（日下君敏君） 富津に至っては一般会計繰り入れが1億5,000万円と伺っているんです。過去これ2年にわたって1億5,000万円ずつ入れている。茂原が6,900万円、君津が8,300万円、木更津が5,000万円それぞれ一般会計から繰り入れていますけれども、例えば今挙げた4市については一定のルールがないというふうに聞いているんです。そういうことでしょうか。館山市のように今2つのルールをつくっているという——館山市はつくっております。この4市についてはそういうルールがないというふうに聞いていますが、いかがでしょうか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 御指摘のとおりでございます。木更津、佐原、茂原、君津、富津それぞれ特別なルールは特に持っていないというふうに聞いております。

◎議長（渡辺昭夫君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） その辺で私は館山市もやはり独自のルールをつくりましたからこれにこだわるということは——当然このルールそのものは1つの見識あるルールだと思います。と思いますが、いかにもこの保険税が高い。保険税が高くて仕方がないということは、徴収率が市民税に比べて大変ダウンするんだ。たしか調定額的には92％程度の読みですか、市民税の場合ですと98％か7％読むんだろうと思うんですけれども、それほど徴収率が低いということもやはりこの国保税は高いんだということの証明だと思うんです。さらに、悪質な不納者っていうか、支払わない者については保険証を取り上げるという——いいか悪いか知りませんが、そういう施策がありますが、そういう方も出るというのは裏を返せばやはり国保税が高いんだということだと思うんです。市長さんは自分の身になってはわからないと思いますが、共済でございますから。この共済と比較しますととんでもない差があるわけです。同じ病気にかかって治るについて大変な国民健康保険税の社会的弱者が多い者がより大きな負担がかかるということは、いかにも社会通念から考えても——これはもう神田さんと同じでございますが、私はやはり許されるべきものではない。これはもう主義主張を超えて私もさように思うものがございますから、ひとつ国保税につきまして何分の御理解を賜って、何とかひとつ税率を少なくとも前年並みとかさようなところに抑えていただきたく要望をいたしておくとところでございます。

次のリゾートでございますが、これももうほとんど神田さんと同じような議論になろうかと思いますが、計画がおくれているということですが、このマリンパークと平砂浦はどの程度一体今時点でおくれているのか、簡単で結構ですが、お聞かせください。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） マリンパークと特定されますとちょっと申し上げ

げにくいんですが、総じて申し上げますと進んでおる企業といひましようか、それにつきましてはおおむね当初より1年ぐらいのおくれか、もう一つの企業については、もう1年ぐらいおくらしているのかなというのが現状でございます。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） このレインボーの先ほどももう固有名詞というか出ました大林組はこれはもうちょっと不可能だということになりますと、これからまた婿探しというか、嫁探しというかなるわけであります。このリゾート——私自体はこのリゾートという法律に基づいて国民が休みなさいということはどうも私も最初から納得のいかない法律じゃないか、私が遊ぶのに何も法律で遊ばしてもらう必要はないなと感じておったんですが、それはそれでございます。この関連で海洋性リゾートタウンということをしきりとこの施政方針でも言っておりますし、強調しておりますけれども、簡潔で結構でございますが、海洋性リゾートタウンというのは何を指すのか、具体的に。簡潔で結構ですが、お答え願いたいと思います。ちょっと時間がありませんので、その海洋性リゾートタウンというのはどういうものを指すのかということが1点。簡単で結構ですよ、簡単で結構です。

それと、先ほどの神田議員との絡みもございますが、ゴルフ場は単体でいかないよというお話がございました。単体でいかないよ、それはもうだめですよと。私は今の時点でこの海の問題というものをがっちりと市当局が把握しておくべきものではなかろうかなと存ずるわけであります。例えば、具体的に申しますと館山湾はこういうふうなところの規制はいくんですよとか、波左間海岸はこうですよとか、坂田はこうですよとかということを、館山市としてこういう今のような時点で海の方もがっちりと陸のようにしっかりと市としての態度を固めておくべきではなかろうかと思うんでありますが、その2点について簡潔で結構でございますからお答え願いたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 今、県で指導しておりますのは、これはっきり

と県で決まっているわけございませんで、これから最終的に決めていくというようなことですが、今の県の考え方といたしますといわゆる建設海岸の埋め立て等については認める方向ではない。いわゆる漁港区域内でというような案が出されているようでございます。そんなところで館山市として推進ができればというように考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 海洋性リゾートタウンということでございますけれども、本市の海洋性リゾートタウンの中心テーマはウエルネス、それからウエルネスファミリーリゾート、すなわち家族がそろって心と体の健康を楽しめるというリゾート地づくりでございます。その中核となる施設といたしましては、ウエルネスリゾートパーク事業により新年度から着手をするということでございます。また、本市リゾートのイメージといたしまして南欧 — 特に、スペイン国のイメージづくりであるこれは景観指導要綱や国際民族音楽フェスティバルなどのイベントで実行しているわけでございます。

大体以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 日下君。

◎18番（日下君敏君） そのことにつきましては、また予算特別委員会もございましょうから、その席で細かいことはお聞きいたしたいと思います。

次の館山幼稚園の跡地でございますが、私はこれは田沢さんが次にまた御質問いたしますんで、館山幼稚園の送迎用の駐車場にいいんじゃないかとか、そういうような要望もあるようでございますんで、その辺の詳しいことはひとつ後の田沢さんにお任せしまして、私1点申し上げたいのは館山市の小学校のグラウンドが狭いんじゃないか — 狭い。また、聞くとところによると、基準はクリアしていますというような話をちょっと事務局から事前に聞いたんですけれども、基準をクリアしていればいいというものではなくて、基準は最低基準を定めておるわけでございますから、ようやく館山市の小学校は基準をクリアしている。北条小学校はそれの30%か40%もうきれいにクリアしているというようなことでございますんで、私はこの問題について有効利用の中に館山小学校のグラウンドの拡張にひとつしていただきたいという御

要望をいたしておきます。また、これも予算の中でお聞きいたしたいと思ひます。

次の第3点目でございますが、ただいま御答弁をいただきましたところによりますと、2月の21日に館山船形漁業協同組合の代表者の方と観光協会の代表者の方々が会合をなさったというふうに御答弁をいただきました。どのような内容なのかお聞きいたしたいというふうに考えるんです。と申しますのはこの噴水につきましてことしに入ってから新聞紙上で何度か私も読ませていただいたわけでありまして。これを世界一か日本一かそういうことを記事で読ませていただきましたんですが、どの程度の具体性を見ているかなというふうに思っておったんでございます。私も関係者でございせんものですからそういうものであるかなという程度の感覚であつたんでございますが、館山市で会合が持たれたというふうに聞きましたものですから、ああこれは市がいよいよ出てきて市が本格的にこの問題に取り組むんだなというふうに考えたもので質問をさせていただいたわけでありまして。ただ、この問題はいろいろ固有名詞が出てくる微妙な問題でございまして、また提唱している方も私も個人的に存じ上げておるし、それがいいという我々同僚の派もございましてものですから、これ1つ間違えますとなかなか誤解を受けるような問題でもございまして、ひとつ言葉を選んで一応二、三御質問をしておきたいと存ずるわけでございますが、館山市が先ほど言いましたように基本計画をいよいよ策定したということで、観光立市ということが当然そこで取り上げられておりますが、この噴水につきまして——今言う噴水、噴水につきまして市当局の対策というか、どのような位置づけをいたしておるのでございましょうか、さらに基本計画の中ではどのように取り扱っておるのか、まずその辺をお聞きいたしたいと思ひます。

◎議長（渡辺昭夫君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） まず、噴水計画についての御質問でございまして、館山市の基本構想及び基本計画にはございません。

また、市といたしましてどのように考えているかというような御質問でございまして、全く検討したことはございませんので、その考えを述べ

ることは市といたしましてもできませんので、ひとつ御了承願いたい、このように考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 多分これ観光協会との絡みがあるんだろうと思いますけれども、観光協会の方から市の方へこういうことになったよというような御提案っていうか、そういうものはなされておるんでありましょうか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 観光協会からというようなことでの、あるいは観光協会でこのように決まったよとか、そういう意味での御提案ではないというように思っております。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） そうしますと、ただいまこの話は一応提唱者があってそこに賛同者がおるといような状態ではなかろうかなと存ずるわけでございますけれども、そうしますとこの市の庁舎の会議室を御利用なさって——先ほど伺いますと館山船形漁業協同組合の代表者と観光協会の代表者が、簡単に申しますと官庁ではない団体が館山市の会議室を使って会議をいたしたということはどういう意味合いがあるんでありましょうか。

◎議長（渡辺昭夫君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 漁協の代表者と観光協会の代表者による話し合いが行われるということにつきましては、将来の館山市の経済振興につながるものと考えまして貸してあるわけでございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 市の庁舎というのはそういう民間が自由に使ってもよろしいということですか。この館山市庁舎の管理規則を読みますと、庁舎を借りる者はあらかじめ市長の許可を得なさいということがこの館山市の庁舎管理規則に書かれておるんでありますが、この第5条。つまり市庁舎を利用する者は、そういう民間が自由に使うということとはできないのではなか

ろうかなと存ずるわけですが、その辺はどういうことでこの会議が持たれたのでありますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 通常は公用による使用頻度が大変高うございまして、市の機関以外の方には使用を今現在させておりません。しかし、今度の場合は緊急避難的ということで利用を認めたわけでございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 緊急避難ってどういうことですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 市民センターの方に用意してあったんですが、人数が多いということで入り切れない、そういうことで、会議室の方がたまたまあいていたということで申し入れがあったのでお貸しした、ということでございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 市民センターを最初使おうということであったんですか。そうしたらば員数が多くなったという、どういう意味なのかな、それは。どういうことですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 当初市民センターの第1会議室——大体あそこは15名から20名ぐらいしか入らないわけですが、そこをとってあったわけですが、市民センターの方から連絡ございまして、今ここにもう60人ぐらいの人たちが集まっているんだけれども、とてもこの第1会議室には入らない、といって市民センターのほかの会議室が全部ふさがっておって貸すことはできませんよというような連絡を受けましたので、急速市役所の方にじゃ特別に今お話ししましたような避難的な面も——緊急避難的と言いましたけれども、そういうことで利用させたということでございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 私はやはり民間団体の話について館山市がどうい

う絡みをいたしたのかなというのがいまい少しはっきりしないんです。館山市がこの問題をもっと積極的にやろう ― その会議の内容は聞いていませんがね、私も。市の方からも聞いていません、どういう内容になったものなのか。その辺をお聞きしませんとちょっと質問が進まぬのですけれども、そういう意味で館山市がなぜそこに入ったのか、ちょっとすっきりしないです。会議の内容がどうであったかということと、その辺をお答え願いたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 会議の内容でございますけれども、当日会議には市といたしましては出席をいたしませんでしたので、内容についてはわかりません。

以上でございます。

（「休憩」と呼ぶ者あり）

◎議長（渡辺昭夫君） 暫時休憩します。

午後２時３１分 休憩

午後３時０２分 再開

◎議長（渡辺昭夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

日下君敏君。

◎１８番（日下君敏君） 私がこの質問をいたします趣旨の１つは、先ほど来の御答弁をお聞きした中で、つまり民間団体と民間団体、あるいは民間の方の提唱に対して民間団体とのお話が先にある、あるいはある予定だったんだということで、それが市民センターで行われるよということだと理解していますが、その話し合いがそのまま平穩に行われればそれはそれで民間の話し合いでありますからもうそれはそれで完結すべきであって、私の方も全くそういう外からこうだああだという話が漏れてこないでそれはそれで終わっていたと思うわけです。それがわざわざセンターから市庁舎の方へ会合を移動してまでもやらざるを得ないということはいささか異常なことではないかというふうに思ったものですから実は質問をさせていただいた、こういうことであります。

先ほどのことでございますが、当初の答弁で漁業の代表者と観光の代表者

とがお話をなさったということですが、どのような内容になったのか、さらにどの程度の人員で行われたのか、お聞きいたしたいと存ずるわけであります。

◎議長（渡辺昭夫君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 先ほども御答弁申しましたように、当日の会議には市といたしましては出席しておりませんので、その内容はわかりませんし、またその報告も受けておりませんので全くわからないわけでございます。

それで、市民センターから役所の方へ移ったというのは、当初が15人から20人ぐらいということで第1会議室をとったわけですがけれども、それが60名というような、今現在60名ぐらい来ておりますよ、とてもここへ入りませんよというようなことで、それで急速市役所の方へ移ったわけでございますけれども、その人数はまた増加しまして私の見た目では150人ぐらいいらっしまったんじゃないかな、こういうようなことで、やはりちょっと2階の会議室にも入り切れないぐらいの大勢の方だった、こういうふうに考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） となると、先ほどの最初の御答弁にあったような代表者が話し合うというような雰囲気ではなかろうと思うんです。私が漏れ伝え聞くところによると、会議にならなかったというようなお話も聞いたものですから先ほど来繰り返しているようにこの質問をさせていただいたわけであります。市庁舎の管理規則でも、第4条で示威または喧騒にわたる行為をなすことは相ならぬというふうに書いてあるわけです。ですから、何かそういうような話し合いというよりは、一方が多数で一方が少数でどうもほとんど話し合いという雰囲気ではなかったというようなお話を聞いたものですから、これは私も余分なことでございますけれども、会議というものはやはり平穩に行われて、そういう観光としていいものならばしっかりとしかるべきところで詰めるべきではなかろうかと思ったからかような質問をしたわけであります。

さらに申し上げれば、やはり市の方も市庁舎を使わせた以上、ここへ立ち会っていないということもこれまたおかしい話だと思うんです。市はこの問題については立ち入っていないということはそれはそれでよろしいと思うんです。よろしいんですけれども、しかし市庁舎を貸しておいてそこに立ち会わないというのは—— どのような会議が行われることは別にしまして、市庁舎の管理はやはり当局がすべきものでありますから、むしろその会議に立ち会っていないかったということが逆に私に言わせればおかしいことではないのかな、こう思うんですが、いかがでありますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 代表者の会議ということで聞いておりましたので、私どもも良識ある会議が行われる、このように判断いたしまして立ち会ってございません。

それで、今会議が騒がしいというような件ございましたけども、これにつきましては詳しいこと存じませんが、今後とも良好な管理に努めてまいりたい、このように思っています。

◎議長（渡辺昭夫君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 時間もございませんので……。ですから私は民間と民間でございますから、これは本来的には市の庁舎ではなくて市民センターなりあるいは他の場所なりで十分これは詰めていただくべき筋のものだと思うんです。しかし一たび館山市を使うということになりますと、これは当然管理規則に基づかなければならぬ問題だと思うんです。だから、こういうことは本当は言いたくないんですが、建前論で申し上げればこの市庁舎を使わせるについては当然これはあらかじめ市長の管理の許可を得なくちゃならぬ。多分こういうものは文書でやるべきものだろうと思うんですけれども、そこまで言いますとまた酷になるし、私も建前論ばかり申し述べても仕方がありませんからそれは避けますけれども、一たん市庁舎を使わせるということになれば、それはそこに市が介入するしないは別にして、どのような会合が開かれるのかなということ、市を使わせる以上立ち会うのが逆に当然だと思うんです。今般の場合は聞くとことによりますと、今のあれですと 1

50名。150名のほどの者をもし市が入れたとなると、当然大会議室には入らなくて廊下にあふれるような事態も生じてくると思うんです。そうしますと、今度一般市民の方々の迷惑というようなことにもなりかねない。でありますから、ひとつ公私のけじめはしっかりとつけていただいて今後の運営に当たっていただきたいと存じます。

終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で18番議員日下君敏君の質問を終わります。

次、3番議員田沢勝信君。御登壇願います。

（3番議員田沢勝信君登壇）

◎3番（田沢勝信君） 最後の質問者になりましたが、議員任期中最後の一般質問でございますので、しばらく御清聴をお願いを申し上げます。私は、既に通告してございます5点にわたって順次質問を申し上げます。

質問の第1点目は、旧館山幼稚園の跡地利用に関してでございます。昨年12月議会でこの質疑を行いました、その質疑を踏まえて再度この跡地利用について市の基本方針についてお伺いをしたいと思います。昨年12月の議会の中では、この跡地利用が現状を関係者で見えますと園児の通園対策として自動車が120台駐車しております。また、通園方法には自転車もあるわけですが、この自転車の通園が74名、徒歩の通園が43名ということでありました。また、学区が大変広く、最大通園距離が3キロもある学区でございます。したがって、私はこの跡地利用についてこの通園対策の駐車場抜きでは考えられないのではないかというふうに考えております。12月の議会の中でも、教育委員会からは「なるべく代替地として利用されぬようそのまま残していただきたいというのが私たちの希望でございます」、こういった教育委員会の意見もあるわけであります。

先ほど関係学区の議員であります日下議員から質疑がなされ、市長からこの跡地利用についての基本方針が示されました。基本的には代替地として利用する、今後現状を踏まえて有効利用を考えていく、そういった答弁であったというふうに思います。私は大変問題がある基本方針ではないのかというふうに聞いておりました。また、先ほど日下さんの方からグラウンドに使っ

てはどうか、そういった意見も出されました。私は関係学区の住民とも話し合いを持ってまいりましたが、何といたってもやはりこの跡地は幼稚園の送り迎えのための一時的な駐車場にしてほしい、こういった意見が圧倒的に多数でございます。また、昨年の中での、仮にこの跡地が代替地として使われた場合に教育委員会として小学校用地を使用することも検討しているというお話がございましたので、私ども父兄の皆さんとともに本当にこの跡地がなくなって小学校の用地が駐車場に使えるのかどうなのか調査をしてまいりました。とても使えるような状況ではありません。また、小学校用地を駐車場に使うなどということは子供たちの安全上大変問題がある方針だというふうに言わざるを得ません。また、スクールバスで通うことができるのかということも調査をしてまいりました。この幼稚園の東口は大変道路が狭く、スクールバスでは幼稚園に直接つけることができません。したがって、スクールバスによっても新たに引率者等をつけなければならなくなり、また西口の方も道路が大変狭いためスクールバスによる通園も不可能かというふうに思いました。こういった点を踏まえて、この旧館山幼稚園の跡地利用についてはやはり園児の送り迎えの駐車場を軸にして有効利用を考えるべきだというふうに思うわけであります。このことについて改めて市長の基本方針をお尋ねしたいというふうに思います。

次に質問の第2点目、総合病院の建設について市長の所見をお伺いしたいと思うわけであります。御承知のとおり、一昨年の市民意識調査結果でも市内医療施設についての不満度はかなり高い数値を示しております。こうした市内の医療体制の背景から総合病院の建設の要望が強く出されております。その内容をいまい少し詳しくお尋ねしてみますと、君津中央病院あるいは亀田総合病院まで行かなくても、せめてこれぐらいの高度治療を受けられる病院が市内にぜひとも必要だという声が返ってまいります。先般の市長選挙の際も、いずれの候補もこの市民の要望を踏まえ総合病院の建設について触れられておりました。しかしながら、県の保健医療計画を拝見しておりますと――1月の28日の県衛生部で千葉県医療計画の原案が示されておりますけれども、この原案は館山市民の要望とはますますかけ離れ、総合病院建設の大

きな壁になっているように思われてなりません。そこで、具体的に市長にお尋ねしたいわけであります。市長は市民の強い要望でもある総合病院の建設、少なくとも君津、鴨川まで行かなくても高度の2次治療が受けられる医療体制の確立に向けてどのような施策あるいは方針をお持ちなのか、ぜひ明らかにしていただきたいと思います。

次に第3点目の質問として、庄司市長の選挙公約でもあったオンブズマン制度の導入についてお伺いしたいと思います。昨年12月議会でも、この件に関して私を含めて何人かの議員の質疑がございました。その質疑の中で、市長はオンブズマン制度の導入についてこう述べられております。「私が市長に立候補した際になるべく多くの市民の声が反映される市政を推進したいと思ったわけであります。今後市民の声を反映して明るい行政を推進するために検討したい」、こう述べられておりました。ところで、市民の中には市長が公約されたオンブズマン制度の導入について、その制度の内容と役割について、その制度がなぜ必要なのか、オンブズマン制度の導入は市民にとってどのような意義があるのか、いま一つ明らかにしていただきたいという期待感があるように思われます。そこで、改めて質問したいと思うわけですが、市民の声が反映される明るい行政の推進を行うために必要とされるオンブズマン制度について、その具体的制度の内容、その役割と行政におけるオンブズマンの市民的意義について市長の所見をお伺いしたいと思います。

次に質問の第4点目、中央保育園の入所年齢制限の見直しについて再三再四の質問になりますが、お尋ねしたいというふうに思います。昨年12月議会で明らかになってまいりましたが、中央保育園の3歳までの入所年齢制限のため4歳児から学区外の保育園に転園せざるを得ない者が19名中何と15名にも及んでおります。このような幼少の子供たちにとって、学区外転園を強い入所年齢制限には大きな問題があると言わざるを得ません。市のこれまでの答弁を聞いておりますと、中央保育園の措置年齢を3歳未満とした経緯について説明され、市街地で働く婦人あるいは職場の代表から乳児保育及び長時間保育について要望を受け、当時行われていなかった3歳児未満の措置に対する要求にこたえて設置したもので、4、5歳児を預かるには広さにウイ

ークポイントがあり、このまま乳児保育として継続したいということでありました。乳児の保育を早くから実施したということでは高く評価をするものでありますけども、近年子供の保育行政を取り巻く環境も大きく変化しております。民間保育園及び各自治体による保育園にあっても、ゼロ歳児保育あるいは長時間保育の積極的推進が望まれる環境にありますし、行政としてもその積極的な後押しが期待されている昨今であります。中央保育園の所在する学区内には民間保育園が2つございます。この2つの保育園がともにゼロ歳児保育を実施できるような環境整備ができるようになれば、学区外転園を余儀なくされるような中央保育園の入所年齢制限の問題も克服されていくのではないのでしょうか。そうした観点から改めて中央保育園の入所年齢制限の見直しの検討を求めたいと思うのでありますが、市長のお考えをお聞かせ願いたいというふうに思います。

最後に第5点目の質問として、駅前自転車置き場の拡張についてお尋ねしたいというふうに思います。先ほど神田議員の質疑でおおむね私の質問したいと考えていたことに対する答弁がございましたので、重複は避けたいというふうに考えております。振り返ってみますと、8年前初めて議員に当選をさせていただき、初めての一般質問の項目の中にこの駅前の自転車置き場の拡張の質問をしております。振り返ってみますと、何と8年たってやっとこの自転車置き場の拡張がされていく方向が見えてきたのかな、そういった感慨深さを持って聞いておりました。そういった立場から具体的に質問を申し上げたいというふうに思いますが、先ほど駅の東西に自転車置き場を設置する、そういったお話でございました。過去の質疑の経過もございますので、この駅前の東西に確保される自転車置き場の台数はどのぐらいなのか、また完成時期については先ほども答弁がございましたので結構でございますけども、大まかに改めていつごろ完成するのか、お聞かせ願いたいというふうに思います。

以上、5点にわたって質問を申し上げましたが、答弁によりまして再質問をしたいというふうに思います。よろしくお願いいたします。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) 田沢議員の御質問にお答え申し上げます。

大きな第1、旧館山幼稚園の跡地利用についての御質問でございますが、さきに日下議員にも御答弁申し上げましたが、基本的には公共事業を推進する際の代替地として利用してまいりたいと考えておりますが、現況を踏まえ有効活用についてさらに検討してまいる所存でございます。

次に大きな第2、総合病院の建設についての御質問でございますが、市民の多くが近くで必要な医療を安心して受けられる地域医療体制の整備を望んでいることは十分認識しております。しかしながら、御承知のとおり千葉県保健医療計画の枠内での対応はおのずから限定されております。現在、安房医師会で同病院の改築計画を医師会病院保健センター建設委員会を設置して検討が進められていると伺っておりますので、市民の御要望に沿うべく同病院の機能の充実を働きかけていくことが最善の方法と考えております。この計画の推進につきましては、市といたしましても関係機関と連携をとりながらできる限り協力してまいる所存でございます。

次に大きな第3、オンブズマン制度についての御質問でございますが、オンブズマン制度の役割につきましては今日の行政活動拡大とともに市民の権利や義務が損なわれていると思われるとき、苦情の処理や救済のために第三者的立場で簡易、迅速に調査を実施し、行政に落ち度があると認めた場合には是正の措置を勧告するほか、制度の改善を求める意見を表明できるものでございます。このように市政の運営に当たり適正化を促す行政監査委員であり、議会で選任され、行政及び議会から独立した委員でございます。今私は市民の声を反映して明るい行政の推進を考え、これを進めるべく努力しており、また市民代表の議会とも意思の疎通を図っておりますので、今後の推移を見守りたいと考えております。

次に大きな第4、中央保育園の入所年齢制限についての御質問でございますが、中央保育園は昭和50年に働く婦人の強い要望によりまして乳児専門の保育所として新設されました。この設立趣旨及び私立保育所との強調もあり、私立保育所が定員割れしております措置の現況を考慮いたしまして、このま

ま乳児主体の保育所として継続してまいりたいと考えております。

次に大きな第5、駅前自転車置き場の拡張についての御質問でございます。先ほども御質問ございました。現在の自転車駐車場の収容台数 200台に対しまして、その周辺を含めまして 600台余りが駐輪されている現状でございます。今後の増加を見込み計画台数を 1,000台程度といたしまして、駅周辺市街地整備事業との整合性を保ちながら東口、西口ともに 500台程度の自転車駐輪場を可能な限り駅に近いところへの設置を計画しているところでございます。

以上で答弁終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） 第1点目の跡地利用について再質問をしたいというふうに思います。大変含蓄のある回答で、どのように受けとめたらいいのか私自身も非常に悩みもあるわけでございます。しかし、あいまいにできないような点もございますので、何点かお尋ねをしたいというふうに思います。

先ほどの跡地利用の基本方針は、市の公共事業の代替地、しかし現状を踏まえて今後の有効利用を検討していく、こういったお話でありますので、その理解についてお尋ねをしたというふうに思います。先ほどの市長の答弁は、当面あそこの土地は代替地利用はしない、そういうことで理解してよろしいでしょうか。また、今後有効利用を検討していく、そういったお話もあったわけでございますけども、この有効利用についてはやはり一時的な駐車場を第一義的に確保する、その上で有効利用を図る、そのように理解してよろしいでしょうか。

◎議長（渡辺昭夫君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 現在代替地としてのところも今出ておりませんが、代替地として必要な――今後出てきた場合は、どうしても代替地として必要だという場合は代替地としていきたいというのが基本方針だ、こういうことでございます。それまでの間は現状今使ってございませんで、有効利用について検討していく、こういうことでございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） 公共事業のために代替地を希望する方が出てくれば代替地として利用していく、こういったお話です。こういった話が市民の間から大変な批判を受けているわけであります。そこで、教育委員会にお尋ねをしたいというふうに思います。先ほども私どもの調査に基づいて申し述べましたが、あの跡地が仮に代替地として利用された場合、教育委員会として小学校用地等を駐車場に使うことも検討している、こういった考え方も示されておりますけども、私は実際上は不可能ではないのか、またあるいは小学校用地を園児の送り迎えの駐車場に使う、余りふさわしい話ではないのではないか、そのように考えるわけでありますけども、その辺について教育委員会としてはどのようにお考えになっておられますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 吉田館山小学校の校長は館山幼稚園の園長も兼ねていらっしゃいますので、絶えず私とその場合に備えていろいろと研究しておりますけども、安全を第一としながら、しかも幼稚園の事業、保育等に影響ないようにするためにはどうしたらよろしいかという立場で検討いたしております。そのために、現在の小学校の校門から入りまして左の方へと小学校の生徒は入っております、また小学校の先生方も入っておりますので、そのような道を通らない方法はないものかと現在考えております。小学校の校地を利用するのは適当じゃないという御批判でございますけども、当面の問題としてはやはり小学校のあいているところを利用させてもらう以外は方法はないのじゃないか、こう思っております。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） もう一点教育委員会に確認したいというふうに思います。

12月の議会では、この子供の通園方法、車の台数が120台、そういった報告がございました。恐らく私はこれは子供さんが入園する時期に父兄の皆さんが通園方法をどういうふうにしますか、こういった調査のときにアンケート用紙に書かれた台数だと思うんです。実際は――私は昨年10月30日、こ

の日は雨でした。自転車の通園は何と4台です。徒歩の通園も8人です。あと全部車です。車通園になります。これは雨のときです。1月に入って晴れた日に調査をしました。やはり120を大幅に上回っているんです。160台近くが実際に一時的な駐車場として使っているわけです。これだけの台数が果たして小学校用地で賄い切れるのかどうなのか、それをお尋ねしたいというふうに思います。また、仮に小学校用地で賄い切れないということになれば、恐らく車はあの狭い道路に駐車をするというふうに思います。結構通勤車も通る道であります。そうなれば恐らく道路が非常に渋滞するのではないかとこのように考えますけども、その辺はどのように認識をされておりますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 御指摘のとおり、なかなか困難な問題があるやに承っておりますが、しかしながら校長兼園長は多分この道でこのような方法でよいのだろうというようなことをおっしゃっておりますので、絶えず現状を見ていらっしゃる園長さんがおっしゃるのだから、私は可能である、こう考えております。小学校の先生方の駐車場がございますので、それをできるだけ整理いたしまして、そのあいているところを有効に利用させてもらう。駐車場からそれほど幼稚園までは遠くありませんので、園児をおろせば歩いていけるのではないか、父兄が、保護者が付き添いでなくても園児は自分で行けるんじゃないか、このように考えている。ですから、自動車で園児をおろしたならば直ちに自動車で来た方はすぐお帰りいただく、こういうように考えております。しかしながら、おっしゃるとおり今までない現象でございますので、相当な詳細な方法を具体的に考えないとそういういろんな問題が起きてこようとは私は考えておりますけども、一時的な方法としてはやむを得ないんじゃないかなと思っております。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） この跡地は一般財産になっておりますから、これをどう利用するかと絶えず教育委員会が受け身の立場にあるわけで、そういった立場から学校用地も使うことを検討せざるを得ないそんな立場にあるのか

なっているふうにお伺いをしておりました。しかし、園長先生がどのようにお話をしているかわかりませんが、とてもじゃないが小学校用地に 100 台も超すような車をとめるスペースはないだろう、現実には。そのように私は見ております。

そこで、改めて市長さんにお伺いしたいというふうに思いますが、館山幼稚園をつくるときに市長さんは当時の館山小学校の校長先生だったと思うんです。それで、今の幼稚園建設に対して非常に努力をされた、こういった話も伺っております。市民の間では、言ってみれば館山幼稚園を知り抜いた市長でございますからよもやあの跡地を代替地などということに使いはしないだろう、そういった期待感もまた多くあるわけでございます。市長さん、現状を見てやはり私は当面きちんと住民サイドも含めて有効利用、この結論が出るまでの間あの跡地は駐車場として使わせてやっていいのではないかとこのように考えますけれども、市長さんこの辺はいかがでございましょうか。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 貴重な御意見として拝聴しておきます。ありがとうございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3 番（田沢勝信君） 住民を苦しめることがないようにぜひ検討をしていただきたい、そういうふうに思います。

質問の次に移ります。第 2 点目、総合病院の建設についてでございますけれども、現実的には県の医療計画が大きな壁になってなかなか総合病院の建設は無理かといった印象は率直に私も持っております。しかし、これで県の医療計画がいいのか悪いのか、それ大いに私は県段階で論議をしていただきたいというふうに考えているものであります。先ほど市民が — 一般的には総合病院の建設ということと言いますけれども、高度の治療を館山で受けたいんだ、こういった要望が大変強くなってまいりました。実は私も何人かの方から御相談を受けましたが、館山市が人口が高齢化していく、そういったことはたびたび言われてまいりました。私が相談を受けたときに気がついたのは、実は館山市内の人口構成、世帯構成を見ておりますと、若い方がやはり仕事

を求めて都会に出ていく、そのためにうちに残った方がお父さんとお母さんだけ、そういった世帯がかなり多いということがわかってまいりました。そういった言ってみれば自分の近くに子供さんもない、お父さんとお母さんだけで生活をしている、こういった背景がやはり近くで安心をして受けられる医療体制の要望になっているのではないかというふうに私は考えてまいりました。

そこで、具体的に質問をしますけれども、先ほど医療センターの改築計画があるので、その際に医療センターの言ってみれば機能の充実、こういったことを積極的に医師会と話し合っていきたいというようなお話がございました。この現状の医師会病院の改築によってどの程度機能が充実した医療体制ができていくのか、もしわかれば御説明を願いたいというふうに思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 現在の医師会病院の改築の計画につきましては、まだ具体的なものは入手していないわけですがございますけれども、ただ先ほど議員さん御指摘いただきましたけれども、千葉県の保健医療計画、この中で安房医師会病院も含めましていわゆる公共公益病院としてその機能の充実を期待されているというような文言がございます。そういうことで、この機能の充実については市としても働きかけてまいりたいというふうに考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） ぜひ強力に働きかけを行っていただきたい、そういった要望を申し上げて次に移りたいというふうに思います。

3点目のオンブズマン制度の導入、これ私は内容を知れば知るほど市長さん大変な英断をなされた、大変な勇氣ある公約をなされた、そのように感じております。したがって、それだけにやはり行政内部の抵抗も非常にあるのではないかということが予想されます。私どもも全面的にバックアップをしてまいりたいというふうに思っておりますので、どうか検討を早急にして実施をしていただきたい、というふうに思います。

第4点目、中央保育園の入所年齢制限についていまいちお尋ねをしたいと

いうふうに思います。中央保育園が建設されて十数年がたちました。さまざまな状況も変化しております。私は乳児保育の重要性、最もそのことを訴える立場でもありますけれども、いま一つ心配なのは幼い子供たちが3歳まで中央保育園に入所して、そして4歳からは何と7割の方が学区外に転園せざるを得ない。そしてまた、小学校に入るときは自分の学区に戻って小学校に入学する。こういった状況は、子供たちの仲間づくりあるいは人間関係づくりにとって余り教育上もいいことではないのではないかというふうに考えております。私も小学校5年生の子供がおりますけれども、自分の子供を見ておりますと最近の子供の仲間づくり非常に特色がございます。地域で縦の仲間と遊ぶということはまず私は自分の子供ながら見たことがありません。やはり小学校の同級生同士、あるいは保育園の同級生同士、幼稚園の同級生同士、こういった仲間づくりの特徴があると思うわけであります。こういったことを踏まえて、転園に転園を重ねて入学時は全く友達がいない学校に入学しなければいけない、大きな問題があるのではないかというふうに思っております。この辺について教育委員会の見解をお聞かせ願いたいというふうに思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 事細かに検討したわけでございませんので何とも申しようございませんけれども、現在のところ私の知る限りにおきまして大きな問題は起きていないんじゃないかと思っております。私の方の管理下にあります北条幼稚園にも中央保育園の幼児がたくさん入ってまいりますけれども、この幼児は非常に順応性が強くて、同化性もありますし、すぐに新しい友だちをつくりまして非常に仲よくやっている。むしろ3歳児までしっかりいろんなことを身につけてきているので、いろんな面ですぐれている点が非常にあるというようなことで北条幼稚園の教頭からも返事がございましたし、また北条小学校へ行っても北条幼稚園を通りますからそれほど中央保育園の問題起きてきておりませんけれども。他の保育園に行った幼児につきましても私の方にそういう悪い情報は入っておりませんので、今のところ私は教育的にはそれほど大きなマイナスにはなっていないんじゃないかな、このように

考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） 具体的な調査をされていないようでありますので、一般論として子供の順応性、そういったものがあるから問題は起きていない、教育上も問題はない、こういったお話かと思えますけども、私は現状は違うと思えます、率直に申し上げて。と申し上げますのは、子供たちが本当に順応していく力がある、子供たちが自分の口から文句が言える、そういった立場であれば問題はないと思えますけども、子供たちはこの問題に関しては物を言いません。しかしながら、父兄からは毎年、毎年何とかならないのか、こういった話が上がってまいります。私は一人の親としても、やはり自分の子供が転校する — 仮に自分が転勤を余儀なくされて子供も転校させる、やはり一人の親として非常に悩むというふうに思います。それは子供同士の友人関係、そういったものを断ち切っていかなければならないからであります。また、新しいところに行って友達が当然できるでしょう。私が申し上げたいのは、やはりその学区内で保育もされ、そして仲間づくりもして、そして小学校に入学していく、これが館山市が誇ってきた幼小一貫教育ではなかったのかというふうに私は思います。そういったことから、幼稚園も保育園も可能な限り学区ごとに設けてきたという経過があると思えます。

そこで、この点に関して別の方面から論議をしてみたいというふうに思いますが、先ほど民間保育園との調和といいますか、さまざまな — 民間を圧迫しちゃいけないとかあると思えますので、その辺でお話をしたいというふうに思えますけども、民間保育2つこの学区にはあります。恐らくその1園ではゼロ歳児保育もやっているのではないかというふうに思います。あるいはまた、この中央保育園を転園した — いわゆる退園した19名のうち、その15名が他の学区の保育園に行っているこういった現状では、民間を圧迫する — 仮に中央保育園が4、5歳児まで預かって民間を圧迫する、そういったことにはなっていないんじゃないかというふうに思います。したがって、そういうことを前提にしながら、やはりこの民間保育園が本当に両園ともゼロ歳児を預かれる — 保育料は市の保育園も民間の保育園も全く同一なわけ

ですから、民間の施設整備、人的な面からも含めて民間の施設をきちんと整備をしていただく、当然そこには補助も出るわけでございますから。そうしますと、ゼロ歳児を3園で見れる、こういうことになろうかというふうに思います。そういったことを確実になしていけば、中央保育園でも4歳、5歳の子供たちが十分に措置できるような体制になっていくのではないかというふうに考えるわけであります。その点についてどのようにお考えですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 現在でも民間私立と保育園についての育成といえますか、そういうものはなされているわけでございます。ただ、ゼロ歳児保育につきましては、やはり私立の保育園の考え方、体制、施設のあり方、そういうものが関連があるわけでございます。そういうことで、現在の中央保育園のあり方、先ほど市長が答弁いたしましたけれども、立地条件、それから当初の設立の趣旨、民間のそういう協調、そういうものから見てやはりこのまま乳児主体の保育所として継続してまいりたいということでございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） そういうことで問題があると思うから実は転園しなくてもいいような保育園にしていいただきたい、民間含めてそういう体制をつくっていただけないだろうか、こうやって聞いているわけです。毎回同じ答弁では困るわけで、その辺を検討する余地が全くないということであれば別ですけれども、私は十分検討できる状況じゃないかというふうに考えているんです。そういった意味からお答えを願いたいというふうに思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 現在のところこのまま乳児主体の保育所として継続してまいりたいということでございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） 今後論議をもっと深めていきたいというふうに思います。

時間がございませんので、最後の自転車置き場の件に関して何点かお尋ね

をしたいというふうに思います。東西で 500 台ずつ確保する、大変結構なことだというふうに考えて聞いておりました。ぜひ早急に実現をしていただきたいというふうに思います。

そこで、質問いたしますけども、たまたま議会で論議してきたことがいろんな市の計画に載っていない、入っていない、こういったこともたびたびあります。この自転車置き場も、8 年前論議したときに西口の開発計画に合わせて市長さんが 300 台を確保していくんだ、こういった答弁がございました。ところが、西口の開発計画を拝見しておりますと、この自転車置き場全く欠落しております。こういったことから、私どもはたびたび市長さんの答弁は一体何だったのかな、そういった感じを受けたりもいたします。新しい市長さんにあってはそういうことはないと思いますが、この東口に設置をする 500 台の駐車場、これは西口の開発計画の中にはっきりと明記をしていただきたいというふうに思いますが、いかがですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 西口計画の中に自転車の駐輪場の計画がないということでございますけれども、これは先ほど神田議員さんの質問に答えました——西口の駐輪場ができる予定、計画としては自由通路が完成した時点ということでお答えしましたけども、西口につきましては十分関係の課の都市開発課と協議はしているところでございます。明らかになっていないんですけれども、西口の区画の隣接するところにこれをつけたらどうかというような計画でございます。そういうことでございますので、全く西口についての計画がないということではございません。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3 番（田沢勝信君） 今の件昨年 12 月の文教民生委員会協議会がございまして、その際私が計画に載っていないではないか、市長さんの公約は違うはずだ、議会でも答弁している、こう申し上げました。そのときの答弁は、計画に載っていないんだということだったんです。ですから、私はそれはおかしいよ、500 台の駐車場を設置するのであればきちんと計画の中に盛り込んでほしい——この話を実は駅前周辺の特別委員会で事情を聞きました、担当

課から。担当課から聞きましたら、いわゆる区画整理をやって調整地が出るだろう、まず地権者を優先させて換地をして残った調整地、そこに自転車置き場をつくっていききたいんだ、地権者の関係もあるのでその自転車置き場の計画は載せておりません、現実には駐車場確保します、こういった答弁がございました。それはそれとして私もそのとおりだろうというふうに考えておりますけども、やはり議会の場できちんと500台を設置する、あるいは西口のいろいろな計画書が出てまいりますけども、その計画書の中にも駐車場をきちんと確保する、そういったことを明記をしていただきたいというふうに要望をしておきたいというふうに思います。

終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で3番議員田沢勝信君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

会議日程の変更

◎議長（渡辺昭夫君） この際、会議日程についてお諮りいたします。

明8日の会議日程は本日に引き続き行政一般質問となっておりますが、本日終了いたしましたので、明8日は休会にいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（渡辺昭夫君） 御異議なしと認めます。よって、明8日の会議日程は変更され、休会と決しました。

散 会 午後3時58分

◎議長（渡辺昭夫君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明8日から10日まで議案調査のため休会、次会は3月11日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

この際、申し上げます。平成3年度各会計予算に対する質疑通告の締め切りは3月11日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問

